

ユーザーズ・マニュアル

_FARFISA V

ARTURIA

_The sound explorers

ディレクション

Frédéric Brun

Kevin Molcard

開発

Samuel Limier (project manager)

Baptiste Aubry

Valentin Lepetit

Benjamin Renard

Theo Niessink (lead)

Corentin Comte

Germain Marzin

Stefano D'Angelo

Baptiste Le Goff

Mathieu Nocenti

Pierre-Lin Laneyrie

Pierre Pfister

デザイン

Glen Darcey

Morgan Perrier

Greg Vezon

Shaun Elwood

Sebastien Rochard

サウンド・デザイン

Jean-Baptiste Arthus

Theo Niessink

Stephane Schott

Boele Gerkes

Jean-Michel Blanchet

テストイング

Thomas Barbier

マニュアル

Hollin Jones

Jimmy Michon

Daniel Tinen

Gala Khalife

Léonard Sauget

Justin Trombley

Minoru Koike

Holger Steinbrink

Jason Valax

スペシャルサンクス

Alejandro Cajica

Ruary Galbraith

Joop van der Linden

Daniel Saban

Chuck Capsis

Jeff Haler

Sergio Martinez

Carlos Tejada

Denis Efendic

Dennis Hurwitz

Shaba Martinez

Scot Todd-Coates

Ben Eggehorn

Clif Johnston

Miguel Moreno

Chad Wagner

David Farmer

Koshdukai

Ken Flux Pierce

© ARTURIA SA – 2022 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.9.1

Revision date: 18 March 2022

Farfisa V をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは Farfisa V の機能や操作方法をご紹介します。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします！ Farfisa V の購入時にシリアルナンバーとアンロックコード、そして Arturia Software Center アプリケーションをEメールでご案内しております。製品登録時にはこれらが必要となります。

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

はじめに

この度は Arturia Farifsa V をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

Farfisa V は、1960年代以降数多くのキーボーディストに愛用されたイタリアのメーカー Farfisa 社が開発したソリッドステート方式コンボオルガンの Farfisa Combo Compact Deluxe を忠実に再現したヴァーチャルインストゥルメントです。Farfisa V での演奏や音楽制作を末永くお楽しみいただけることと思います。

膨大な期間をかけてオリジナルのハードウェアについて研究/モデリングを行い、この伝説的オルガンのサウンドの細かな点やユーザーエクスペリエンスを再現しました。それだけではありません：オリジナルの設計をさらに拡張し、現代の音楽制作環境にマッチした各種の新機能を追加し、クラシックなオルガンをさらにパワフルなものに進化させました。

Arturia の他のヴァーチャルインストゥルメントと同様、"2つの世界"を1つのパッケージに収めています：メインパネルではオリジナルと同様の機能を内蔵し、オリジナルと同等のユーザーエクスペリエンスをお楽しみいただけます。また、アドバンス機能のパネルでは、オリジナルでは不可能だった音作りの各種機能を駆使したディープなサウンドメイキングをお楽しみいただけます。

Farfisa V をお楽しみいただき、音楽制作のお役に立てればこれほど嬉しいことはありません。

The Arturia Team

もくじ

1. Farfisa V へようこそ.....	3
1.1. Farfisa V とは？.....	3
1.2. オリジナルインストゥルメントの歴史.....	4
1.3. ポピュラー音楽への登場.....	5
1.4. Farfisa V としての追加機能.....	6
1.5. TAE によるサウンド.....	7
1.5.1. Arturia 独自のレシビ: TAE®.....	7
1.5.2. エリアシングフリーのオシレーター.....	7
1.5.3. アナログオシレーター波形の再現性向上.....	8
1.5.4. その他のファクター.....	9
2. アクティベーションと最初の設定.....	10
2.1. Farfisa V ライセンスをアクティベートする.....	10
2.2. Initial Setup - 最初の設定.....	11
2.2.1. Audio and MIDI settings: Windows.....	11
2.2.2. Audio and MIDI settings: macOS.....	13
2.2.3. フラグインモードでFarfisa Vを使用する.....	14
3. ユーザーインターフェイス.....	15
3.1. ヴァーチャルキーボード.....	15
3.1.1. コンピュータのキーボードで演奏する.....	16
3.2. アップパーツールバー.....	17
3.2.1. The Farfisa V Menu - メインメニュー.....	17
3.2.2. プリセットのブラウジング.....	22
3.2.3. アドバンスド機能.....	23
3.2.4. サイドパネルでの各種設定.....	23
3.3. ロワーツールバー.....	24
3.4. The Side Panel - サイドパネル.....	25
3.4.1. Settings.....	25
3.4.2. MIDI Tab - MIDI タブ.....	26
3.4.3. Macro Tab - マクロタブ.....	31
3.4.4. Tutorials - チュートリアル.....	32
4. The Preset Browser.....	33
4.1. Search and Results - サーチ&リザルト.....	33
4.2. Using Tags as a Filter - タグでフィルタリング.....	35
4.2.1. Types.....	35
4.2.2. Styles.....	36
4.2.3. Banks.....	36
4.3. サーチ結果表示.....	37
4.3.1. リストの並べ替え.....	37
4.3.2. タグを外す.....	37
4.3.3. Liking Presets - "いいね"をつける.....	38
4.4. Left Sidebar - 左サイドバー.....	39
4.4.1. My Library.....	39
4.4.2. プレイリストエリア.....	39
4.5. プリセットインフォ (右サイドバー).....	40
4.5.1. プリセットインフォのミニメニュー.....	41
4.6. プリセットの選択: 別の方法.....	42
4.7. Macro Knobs - マクロノブ.....	42
4.8. Playlists - プレイリスト.....	43
4.8.1. プレイリストの作成.....	43
4.8.2. プリセットの追加.....	43
4.8.3. プリセットの並べ替え.....	44
4.8.4. プリセットの削除.....	44
4.8.5. プレイリストの管理.....	45
4.8.6. Editing a Preset Within a Playlist - プレイリスト内のプリセットのエディット.....	46
5. Main Panel and Features.....	47
5.1. フロントパネル.....	47
5.1.1. トレブルボイス.....	47
5.1.2. Multi-tone Booster (MTB) Voices.....	48
5.1.3. REPEAT - PERCUSS controls.....	49
5.1.4. TREMOLO control.....	50

5.1.5. Reverb and Vibrato controls	50
5.1.6. The Bass Manual section	51
5.2. The Amp and Pedals	53
5.2.1. このセクションの概要	53
5.2.2. The Effect Pedals	53
5.2.3. The Amp	54
5.2.4. Flanger pedal	55
5.2.5. Phaser pedal	56
5.2.6. Chorus pedal	57
5.2.7. Analog Delay pedal	58
5.2.8. Overdrive pedal	59
5.2.9. The Swell pedal	60
6. Advanced Panel	61
6.1. The Voice Tune section	62
6.2. The Bass Wave section	63
6.3. Noise Level control	64
6.4. Voice Mode switch	64
6.5. The Envelope section	65
6.6. The User Wave section	66
6.7. Master Volume and EQ	67
6.8. Reverb Type	68
6.9. The Knee Lever section	69
7. ソフトウェア・ライセンス契約	70

1. FARFISA V へようこそ

1.1. Farfisa V とは？

Farfisa V は、実機をい手に入れることが難しいクラシックキーボードやシンセを再現した Arturia のソフトウェアインストゥルメントファミリーの一員です。オーセンティックでパツと聴けばすぐにそれとわかる Farfisa サウンドを手軽に使用できるだけでなく、実機では不可能だった21世紀仕様の各種新機能も搭載しています！

Farfisa V は、Farfisa Combo Compact Deluxe のソフトウェアヴァージョンです。再現のベースとなった機種は1960年代中期以降のポピュラー音楽で定番として使用されていたものです。その独特のサウンドキャラクターで今も衰えない人気を誇っています。今では実機の入手は困難ですし、その維持にも相当な費用を要しますが、Farfisa V ならこのユニークなサウンドを難なくお楽しみいただけます。

オリジナルのハードウェアオルガンをリファレンスとして開発された Farfisa V は、名機である Compact シリーズの回路やサウンドを正確に再現できます。スタンドアロンのインストゥルメントのほか、Windows や macOS での主要な DAW で採用されているすべてのプラグインフォーマットにも対応しています。また、使いやすい MIDI ラーン機能を内蔵し、Farfisa V のパラメーターの多くを MIDI コントローラーからリアルタイムにコントロールできるだけでなく、プラグインモードでは DAW のオートメーション機能にも対応し、さらにクリエイティブなコントロールを行えます。

1.2. オリジナルインストゥルメントの歴史

Farfisa はイタリアの電子機器メーカーで、1960年代から70年代にかけて開発された電子オルガンが非常に有名ですが、それ以外にもあらゆるタイプの製品を開発製造していました。こうした電子オルガンはシンセサイザーが普及する以前の時代のものでしたが、多くのバンドにとって運搬がほぼ不可能だった Hammond などのトーンホイールオルガンとは違ったテイストのサウンドが出せたこと、そして何より可搬性の高さが大きな特長でした。Farfisa のサウンドはベースパート用波形のバリエーションが多く、キーボードスプリットにも対応し、パーカッションやビブラートセクションで多彩な音色を作ることができ、当時最大のライバルだった VOX Continental よりも幅広い音作りが行えました。また一部では VOX よりも価格が安く、それでいて信頼性は若干良かったという声もありました。

その結果、Farfisa に代表されるコンボオルガンは当時のポピュラー音楽のスタイルを形成する存在となりました。特徴的かつパワフルなサウンドで、音色に色々な変化をつけるのも簡単でした。さらに良いことに、クルマの後部座席に積み込んでライブに持っていったのです。これは当時のキーボードの多くでは不可能なことでした。

Farfisa Compact シリーズは1964年から69年までに4機種がリリースされました。シリーズ最少モデルは Mini Compact で、Combo Compact には2ヴァージョンがありました。Compact Deluxe — Farfisa V が再現した元のモデル — はより多機能で、2段鍵盤の Compact Duo というモデルもありました。

Compact Deluxe には次のような機能が搭載されていました：

- キーボードスプリットが使用でき、低音部の1-2オクターブでベース音色を演奏できました。最低オクターブは鍵盤色が反転、つまり白鍵が黒、黒鍵が白 (VOX Continental と同様) で、その次のオクターブは白鍵がグレー、黒鍵が白という鍵盤色でした。
- 低音部と高音部で独立したパーカッション機能
- 16' (16フィート) のベース、ストリングス音色
- 8' のフルート、オーボエ、トランペット、ストリングス音色
- 4' のフルート、ピッコロ、ストリングス音色
- 2-2/3' と独立したブリリアントタブ
- 4種類のビブラート設定
- スプリングリバーブ
- 2種類のリバーブ設定
- マルチトーンブースター
- スウェルペダルとマルチトーンブースター用のニーコントロール

Farfisa が独特のサウンドで人気を集めた理由には以下のものが挙げられます：

- 簡易的なエンベロープ (パーカッション) 機能でアタックとディケイを調整でき、オルガン特有の持続音以外の音も作れた点。
- ノートリビートパーカッション機能で The Who の "Teenage Wasteland" のキーボードのようなほとんど矩形波のようなトレモロサウンドが作れた点。
- 80年代のニューウェーブバンドが多用していた、トーンブースターで荒れたサウンドが作れた点。
- 近年のインディーズのエレクトロバンドやロックバンドでよく聴かれるアタックをスローにしたサウンドを作れた点。
- ニーレバー (座って演奏する時に膝で操作できるバー) でサウンド全体にかかるフィルターをコントロールでき、ペダルワウのような効果を出せた点。
- サウンドが全体的に明るく、オルガンというよりはシンセ的なサウンドだった点。

1.3. ポピュラー音楽への登場

Farfisa のサウンドはハードなエッジの立ったガレージバンドや、このオルガンをいち早く活用したサイケデリックバンドによく合いました。ここは重要なポイントですが、当時のキーボードとしては珍しく「運べた」ことがこうしたバンドで使われた大きな要因となっていました。当時の Farfisa はリハーサルスタジオにあるようなオルガンの1つでしたが、結果としてレコーディングにも使われるようになっていったのです。

やがて Farfisa は急速に人気が高まり、60年代のガレージバンド御用達というニッチ的な人気から脱却しました。事実、ロックやポップスへと、さらにはエレクトロニックミュージックへ人気が広がっていき、その背景には当時のポリシンセが非常に高価だったということもあり、その点 Farfisa はオルガンのというよりはシンセ的なサウンドが作れたこともありました。その人気は今も衰えていませんが、実機自体は古くて残っている個体も少ない上に維持費もかかりますので、実機を実際に目にすることは稀です。

Farfisa の著名ユーザーと楽曲：

1960s

- Sam the Sham “Wooly Bully”
- Grateful Dead "Morning Dew"
- The Swingin' Medallions "Double Shot (Of My Baby's Love)"
- Percy Sledge “When a Man Loves a Woman”
- Strawberry Alarm Clock "Incense And Peppermints"

1970s

- Jean Michel Jarre
- Sun Ra
- Pink Floyd ("Dark Side of the Moon" までのアルバムも多く)
- Kraftwerk
- Tangerine Dream
- Sly and the Family Stone
- Van Der Graaf Generator
- Led Zepplin “Dancing Days”
- Herbie Hancock
- Elton John “Crocodile Rock”
- Steve Reich "Four Organs"

1980s

- Blondie
- B-52's
- Squeeze
- Talking Heads
- Simple Minds
- REM
- Fleshtones

1990s

- Green Day
- Inspiral Carpets

2000s

- The Moons
- Stereolab
- Tara Busch
- Paul Weller
- Lords of Altamont
- The Cesars

1.4. Farfisa V としての追加機能

ハードウェアをソフトウェアで再現することで、新たな機能追加が可能になります。オリジナルハードウェアの機能やサウンドはそのまま維持することは言うまでもありません。ですが、Farfisa V にはオリジナルの Farfisa にはなかった機能が数多く内蔵されています。

- USER ポジション：アディティブ (倍音加算) による波形や、スライダーをグラフに見立てて波形を作ることができます。
- オリジナルハードウェアの内蔵スプリングリバップのモデリングやその他のリバップモデルを内蔵しています。
- 以下のペダルエフェクトを追加しました：
 - アナログディレイ
 - コーラス
 - フェイザー
 - フランジャー
 - オーバードライブ (ペアの 12AX7 真空管のモデリング)
- 簡単にアクセスできるボイスごとのチューニング
- エンベローブのアタックをトリガーする際のパラフォニック/ポリフォニック切り替え
- アッパーとローキーボードにアタック/リリースエンベローブを内蔵し、幅広い音作りに対応できます。
- ベースセクションの波形を8種類から選択可能
- ベースセクションのトーンコントロール
- トレモロの周期をDAWのテンポに同期可能
- リピートのテンポ同期

1.5. TAE によるサウンド

1.5.1. Arturia 独自のレシピ：TAE®

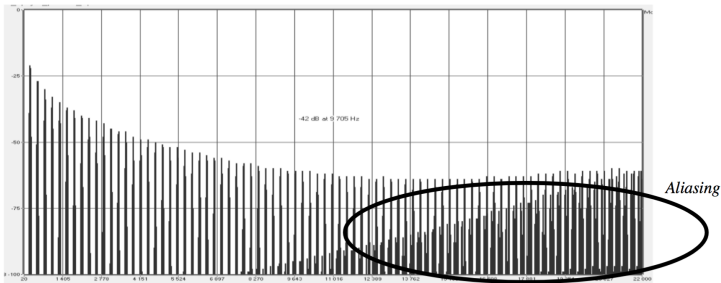
TAE® (True Analog Emulation) はヴィンテージ楽器などに使われているアナログ回路をデジタルで再現する Arturia 独自の技術です。TAE® のソフトウェアアルゴリズムではアナログハードウェアの正確なエミュレーションが可能です。Farfisa V のサウンドクオリティが際立って高いのは、他の Arturia ヴァーチャルシンセやキーボードと同様、この技術を使っているためです。

TAE® は音作りにおいても大きな威力を発揮します：

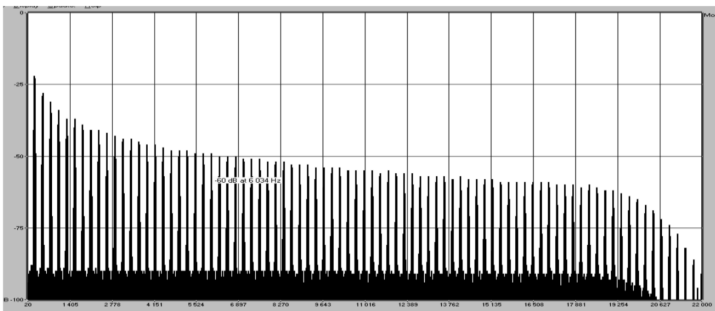
1.5.2. エリアシングフリーのオシレーター

一般的なデジタルシンセサイザーでは高周波帯域にエリアシング (折り返し) が発生し、特にパルスウィズスモジュレーション (PWM) やフリケンシーモジュレーション (FM) を使用した場合にそれが顕著になります。

TAE® ではあらゆる使用状況 (PWM や FM など) でもエリアシングが完全でないオシレーターを開発でき、しかもそれによる CPU 消費の上昇もありません。



某有名ソフトシンセのリニア周波数スペクトラム

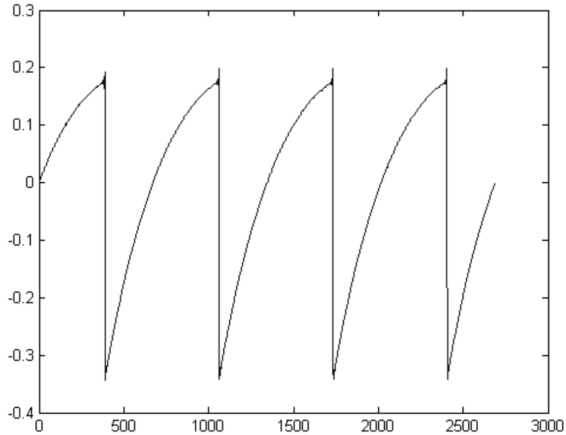


TAE®によるオシレーターモデルのリニア周波数スペクトラム

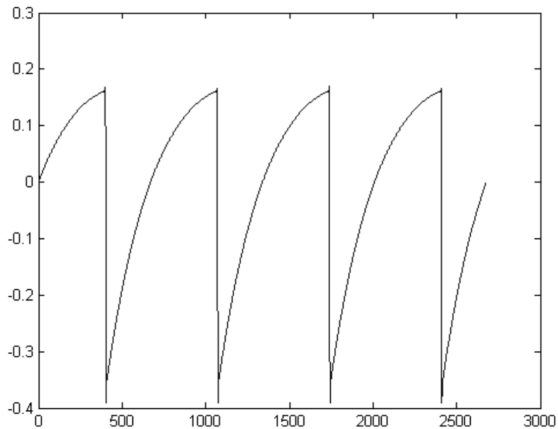
1.5.3. アナログオシレーター波形の再現性向上

アナログシンセサイザーのオシレーターの波形が作られる背景には、回路内のコンデンサが重要な役割を担っています。コンデンサの放電により、原波形 (わかりやすいところではノコギリ波、三角波、矩形波) がわずかに"曲がり"ます。TAE[®] では、そうしたコンデンサが放電した結果もソフトウェアで再現しています。

下の2つのグラフの左は Arturia がエミュレーションに使用したハードウェアシンセサイザーの波形で、右は TAE[®] で再現した波形です。ご覧の通り、ローパスとハイパスフィルタリングにより両方も同じように波形が変化しています。



ハードウェアシンセサイザーのノコギリ波



TAE[®]で再現したノコギリ波

1.5.4. その他のファクター

アナログのヴィンテージハードウェアのオシレーターは、動作が不安定なものがよくあります。波形が周期ごとに微妙に変化していたり、トリガーを受けた時の波形のスタートポイントがその都度変わってしまうのは、温度の変化やその他の環境の状況によるものです。事実、こうした安定性での"諸問題"が、多くのシンセサイザーの音のみんな大好きな"暖かみ"となる主な要因なのです。TAE® では、ヴィンテージオシレーターに固有の安定度の低さも忠実に再現でき、ヴィンテージシンセの最大の特徴であるファットで"ビッグな"サウンドも作り出せます。

Farfisa の場合、スケールの各音をアナログのポテンショメータで調整でき、ポテンショメータの経年変化でスケールの各音のチューニングが微妙にズレてしまうということがありました。ソフトウェアとして再現された Farfisa V では、そうした"マニアックなところ"にも手が届くようになっており、12音がキッチンと正確にチューニングされた状態にも、各音のチューニングが微妙にズレた味わい深いサウンドにすることもできます。

2. アクティベーションと最初の設定

Farfisa V は Windows 8 以降、または macOS 10.13 以降のコンピュータで動作します。Farfisa V はスタンドアロンモードで使用できるほか、Audio Units, AAX, VST2, VST3 形式に対応した DAW (デジタルオーディオワークステーション) ソフトウェアのプラグインインストールメントとしても使用できます。




2.1. Farfisa V ライセンスをアクティベートする

Farfisa V をインストールしましたら、次のステップはソフトウェアのライセンスのアクティベーションです。これは Arturia Software Center という別のソフトウェアで簡単に行なえます。

製品登録では本製品の購入時にご案内いたしましたシリアルナンバーとアンロックコードを入力する必要があります。

製品登録は以下のウェブページにアクセスし、表示される指示に従って作業を進めてください：

www.arturia.com/register

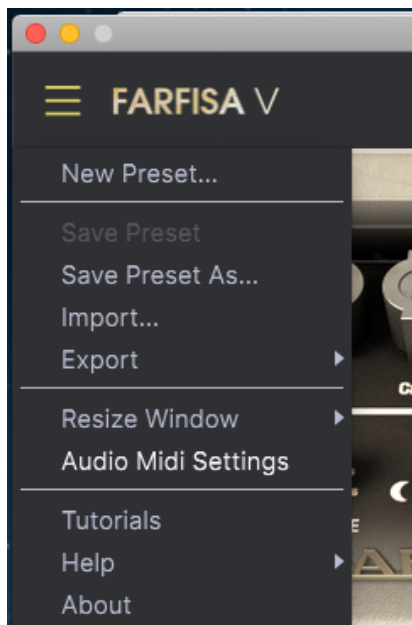
 注：Arturia アカウントをお持ちでない場合は作成してください。アカウントの作成はすぐにできますが、製品登録の際にEメールアドレスにアクセスできることが条件となります。

Arturia アカウントの作成が済みましたら製品登録を行えます。

2.2. Initial Setup - 最初の設定

2.2.1. Audio and MIDI settings : Windows

Farfisa V の画面最上部左側はプルダウンメニューになっています。ここでは、色々な設定オプションが入っています。まず最初に必要なのは、Audio Midi Settings を選択してオーディオと MIDI の入出力を設定します。



Farfisa Vのメインメニュー

Audio Midi Settings を選択すると、下図のような画面になります。この画面は Windows でも macOS でも動作は同じで、デバイス名の表示は現在接続しているハードウェアによって変わります。



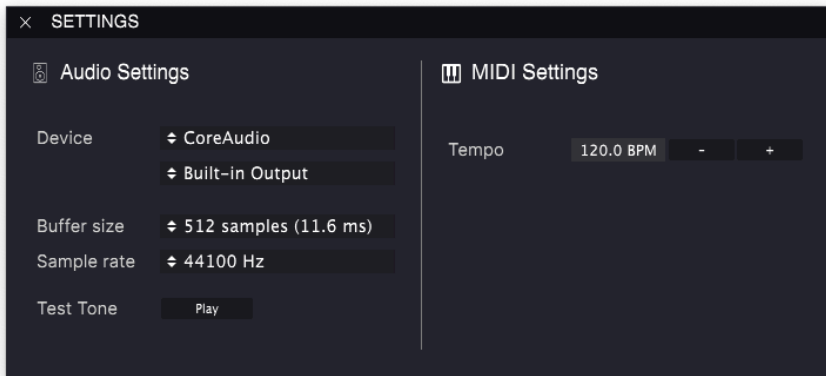
オーディオとMIDIの設定 (Windows)

画面の上から順に、次のようなオプションがあります：

- **Device**：音を出すためのオーディオドライバーを選択します。ここに表示されるドライバーは Windows Audio や、ASIO ドライバーが表示されます。お使いの外付けオーディオインターフェイス名がここに表示される場合もあります。
- **Output channels**：オーディオアウトに使用するチャンネルを選択します。使用可能なアウトプットが2アウトプットのみの場合はそのアウトプットのみが表示されます。2チャンネル以上のアウトプットがある場合は任意のペアを選択できます。
- **Buffer size**：コンピュータがオーディオの演算に使用するバッファのサイズを選択します。バッファサイズを小さく設定するとキーボードを弾いた時などのレイテンシー（遅れ）を低く抑えることができます。大きく設定すると演算速度が遅くなる分 CPU 負荷は軽くなりますが、レイテンシーが大きくなります。お使いのシステムに適したバッファサイズを見つけてください。最近の高速なコンピュータでしたら 256 や 128 サンプルでポップやクリックが混入しないクリアなサウンドになります。クリックノイズなどが発生するようでしたら、バッファサイズを大きくしてみてください。レイテンシーはこのメニューの右側に表示されます。
- **Sample rate**：オーディオアウトのサンプルレートを設定します。選択できるオプションはお使いのオーディオインターフェイスの仕様に準拠します。コンピュータ自体のハードウェアでは 48kHz が最高値かと思いますが、それで十分です。それ以上のサンプルレートでは CPU 負荷が大きくなりますので、96kHz などのハイレートがどうしても必要という場合以外の通常の使用範囲では 44.1 や 48kHz でのご使用をお勧めします。
- **Show Control Panel**：このボタンをクリックすると選択しているオーディオデバイスのシステムコントロールパネルが表示されます。
- **Play Test Tone**：オーディオのトラブルシューティングをされる際にテストトーンを発してデバイス等の設定が正しいかどうかをチェックできます。
- お使いのコンピュータに接続されているすべての MIDI デバイスが **MIDI Device** エリアに表示されます。チェックボックスをクリックして Farfisa V を演奏する MIDI デバイスを選択します。スタンドアロンモードの場合、Farfisa V はすべての MIDI チャンネルに反応しますので、MIDI チャンネルを設定する必要はありません。また、複数の MIDI デバイスを同時使用することもできます。

2.2.2. Audio and MIDI settings: macOS

macOS でのオーディオと MIDI の設定は、Windows 版でのそれとほぼ同じで、各メニューへのアクセス方法も同様です。Windows 版との違いは、macOS ではオーディオの取り扱いに CoreAudio を使用し、お使いのオーディオデバイスは2つ目のドロップダウンメニューに表示されます。それ以外の各種設定オプションの内容は上記の Windows での設定方法と同じですのでそちらをご覧ください。



オーディオとMIDIの設定 (macOS)

2.2.3. プラグインモードでFarfisa Vを使用する



プラグインモードの Farfisa V

Farfisa V は、Cubase や Logic、Pro Tools など主要なすべての DAW で採用されている VST, AU, AAX の各プラグインフォーマットも使用できます。プラグインモードでロードした場合も、画面構成や各種設定はスタンドアロンモードと同様に使用できますが、次のような若干の違いがあります：

- プラグインモードの場合、DAW のテンポに同期させることができ、オルガンのトレモロやリピートの SYNC ボタンをオンにするとそのスピードをテンポに合ったものに設定できます。
- DAW のオートメーション機能を使用して、Farfisa V の各種パラメーターを自動制御することができます。
- 1つの DAW プロジェクト内で複数の Farfisa V を同時使用することができます。スタンドアロンモードでは一度に1つしか使用できません。
- DAW のオーディオルーティングシステムを使用して Farfisa V からのオーディオ出力を DAW 内でよりクリエイティブに加工することができます。

3. ユーザーインターフェイス

Farfisa Vには素晴らしい機能が数多く内蔵されています。このチャプターでは、各種機能がそれぞれ何をするものなのかをご紹介します。刺激的なサウンドが素早くでき、色々な音楽スタイルのプロジェクトにFarfisa Vのサウンドがフィットすることにきっと驚かれるのではと思います。

操作性の良さもかなりのものです；ほんのいくつかをエディットするだけで、サウンドの新たな世界に一気に踏み入れることができます。このことは「使いやすさはそのままに、クリエイティビティを解放する」という Arturia 製品の基本理念に沿ったものなのです。

3.1. ヴァーチャルキーボード

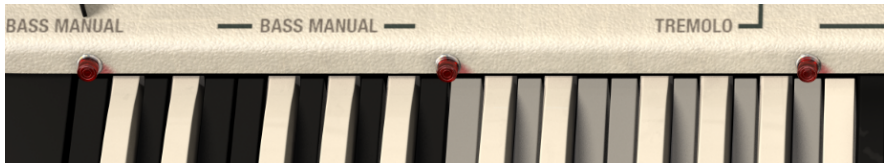
外付け MIDI デバイスを必要とせず、ヴァーチャルキーボードで音を出すことができます。ヴァーチャルキーボードのキーをクリックするだけで、その時に選択していた音色を発音します。キーの上をドラッグするとグリッサンドになります。

Farfisa の実機は実は一種のペロシティセンスに対応しているのですが、その方法はかなり特殊なものでした。それは、各キーの複数の接点がキーとつながるスピードをコントロールするというものです。具体的には各キーに5つの接点 (16', 8', 4', 2-2/3', パーカッション) があります。キーを極めてゆっくり押していくと各接点が順番につながっていくのが聴き取れます。



キーボードは複数のセクションに分かれています。通常の白鍵と黒鍵のエリア (トレブルキー) では常にアップパーレジスター (アッパーパート) の演奏ができます。白黒反転のエリアはベース用で、グレーと白のエリアはトレブルキーかベースキーの延長部に設定できます。

ベースセクションがオフの場合は、キーボードの全域でアップパーレジスターの音色を演奏できます。この場合、キーボードの各エリアの分割点にある小さなランプが全消灯します。



Bass On / Off スイッチでベースセクションをオンにすると、白黒反転キーのエリアでベース音色を演奏できます。この時、反転エリア両端のランプが点灯します (下図参照)。



Grey Keys Sel スイッチを **Treble** から **Bass** に切り替えると、ベースセクションの音域がグレーキーのエリアまで拡大します。この時、反転キーの左側とグレーキーの右側のランプが点灯します。これによりベース音色をより広い音域で演奏できますが、その分だけトレブルキーの領域は少なくなります。



3.1.1.1. コンピュータのキーボードで演奏する

Farfisa V をスタンドアローンモードで使用する場合、Farfisa V の画面をクリックしてからコンピュータのキーボードをタイプすることで演奏しています。英字の中段の各キーが C メジャースケールの各音に対応し、シャープやフラットは下表のようにその上のキーになっています：

文字	A	W	S	E	D	F	T	G	Y	H	U	J	K	O	L
音程	C	C#	D	Eb	E	F	F#	G	Ab	A	Bb	B	C	C#	D

1オクターブアップするには (QWERTY 配列) : "X" を押します。

1オクターブダウンするには (QWERTY 配列) : "Z" を押します。

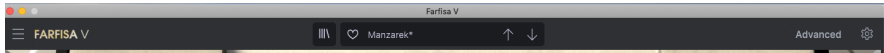
AZERTY 配列 キーボードでのレイアウトは以下の通りです：

文字	Q	Z	S	E	D	F	T	G	Y	H	U	J	K	O	L
音程	C	C#	D	Eb	E	F	F#	G	Ab	A	Bb	B	C	C#	D

1オクターブアップするには (AZERTY 配列) : "X" を押します。

1オクターブダウンするには (AZERTY 配列) : "W" を押します。

3.2. アッパーツールバー



スタンドアロンモードでもプラグインモードでも、Farfisa Vの画面上端部にはツールバーがあり、そこには Farfisa V メニューやプリセットのブラウジング機能、アドバンスモードへの切り替え、MIDI マッピング機能といった重要な機能が入っています。

3.2.1. The Farfisa V Menu - メインメニュー

画面左上コーナー部分にある Farfisa V のところをクリックすると、プルダウンメニューが開いて9種類の重要な機能が表示されます。



- **New Preset...**

1つ目のオプションはデフォルトプリセットから音作りをする、いわゆる「新規プリセット作成」です。デフォルトプリセットは、すべてのエフェクトがオフ、キーボードスプリットがオフ、STREINGS 8' と FLUTE 4' のみがオンになっています。この状態から用途や好みに応じて音作りをし、このオプションの下にある **Save As...** コマンドを選択して名前を付けてセーブできます。

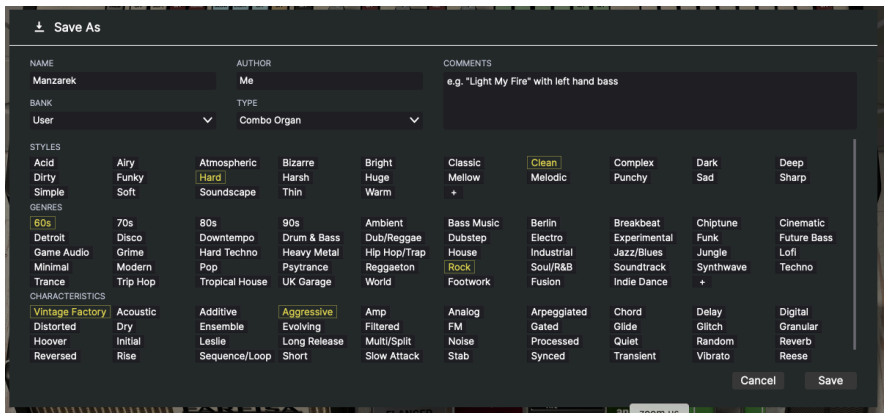
- **Save Preset**

2つ目のオプションはプリセットをユーザーバンクにセーブするときに使用します。

1 選択していたプリセットがファクトリープリセットだった場合は、最初に **Save As...** でそれをユーザーバンクにセーブする必要があります。ファクトリープリセットを選択した場合、**Save Preset** はグレーアウト表示になって選択できません。

このコマンドを選択した場合、そのプリセットに関する情報を入力する画面が表示されます。

1 2 Arturia のパワフルなブラウジングシステムは、プリセット名だけでなく、そのプリセットに関する各種情報を入力できます。例えば、プリセットの作者名や Bank と Type、そのプリセットの音色的特徴を示すタグの選択や、オリジナルの Bank, Type, Style も追加できます。これらの各種情報をプリセットブラウザが参照し、プリセットのサーチに活用されます。また、Comments フィールドにはそのプリセットに関するコメントを自由に書き込むことができ、そのプリセットの活用などを後で思い出す場合や、他の Farfisa V ユーザーとプリセットをシェアする場合などに便利です。



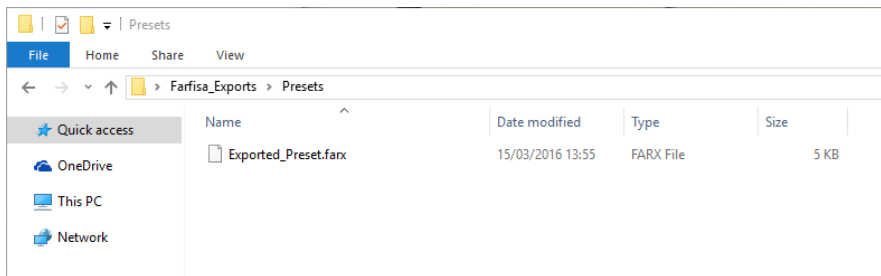
• Save Preset As...

このコマンドの動作は *Save Preset* とほぼ同様ですが、元のプリセットに上書きセーブせずに、コピーを別の場所にセーブします。元のプリセットを残しつつ、そのプリセットのバリエーションとしてセーブしたいときに便利です。

1 プリセットをエディットすると、プリセット名の後ろにアスタリスク (*) が表示され、プリセットがエディット中であることを表示します。この状態でプリセットをセーブせずに別のプリセットを選択すると、エディットしていた内容が消去されてしまいます。

• Import preset

このコマンドは、プリセットファイル (.farx 形式) をインポート (読み込み) するときに使用します。プリセット1個のみ、または1バンク分のプリセットのいずれかを選択できます。



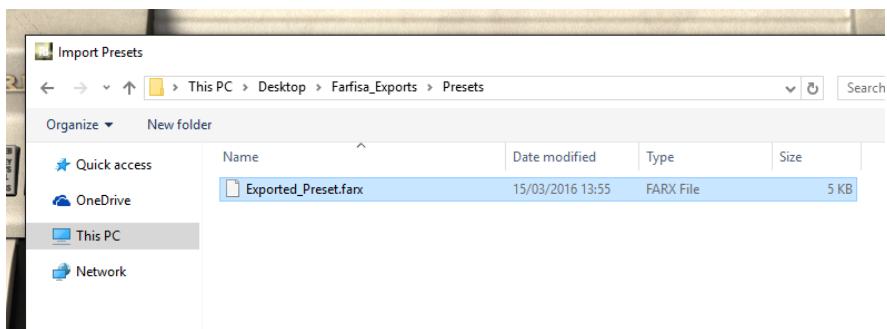
プリセット1個分のファイルを書き出した状態のデスクトップ

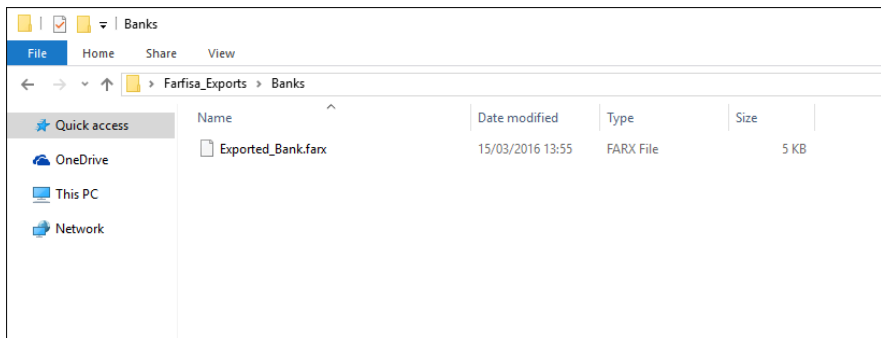
• Export

プリセットのエクスポート (ファイル書き出し) をするときには、このコマンドで行います。プリセット1個のみ、または1バンク分のいずれかを選択できます。



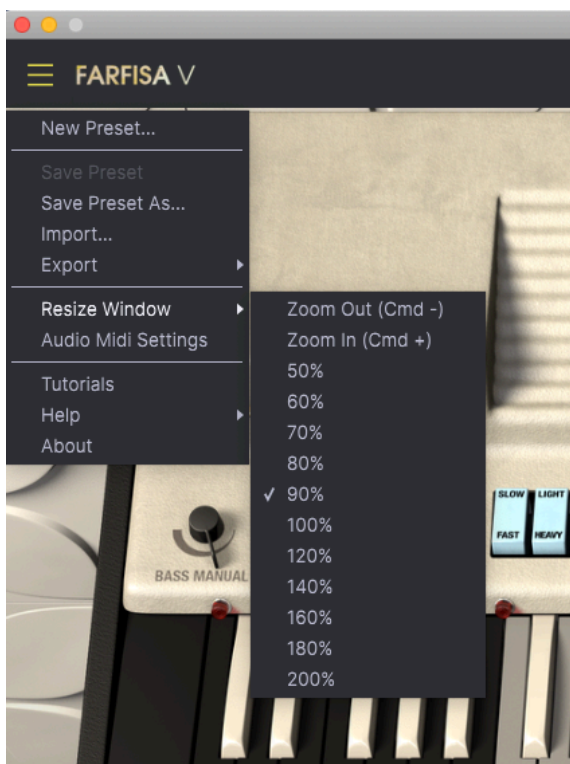
ユーザーバンクのエクスポート





1バンク分のプリセットファイルを書き出した状態のデスクトップ

- **Resize window options**



Farfisa Vの画面は60%～200%の範囲で画質が変わることなくリサイズできます。ラップトップなどスクリーンが小さめの場合は画面を縮小して Farfisa V だけでスクリーンを占拠させないようにすることもできます。大型スクリーンやセカンドモニターでご使用の場合は、拡大表示の見やすい状態で操作できます。ズームレベルに関わらず各種コントロールの動作は同じですが、拡大率を上げることで細かなコントロール類が見やすくなります。

! 画面サイズの変更は、キーボードショートカット (Windows: Ctrl & +/-、Mac: Cmd & +/-) でも行えます。一部の DAW では同じキーボードショートカットを DAW の画面ズームに割り当てているものもあります。その場合は DAW の機能が優先されますのでご注意ください。

- **Audio MIDI settings (スタンドアローンモード時のみ)**

ここでは**スタンドアローンモード**時のオーディオと MIDI の入出力設定を行います。詳しくは、[Audio and MIDI settings \[p.11\]](#)をご覧ください。

! Audio Settings メニューはスタンドアローンモード動作時にのみ使用できます。Farfisa V をプラグインとして使用している場合、オーディオの入出力や MIDI の送受信、バッファサイズなどの設定は DAW などのホストソフトウェアが管理します。

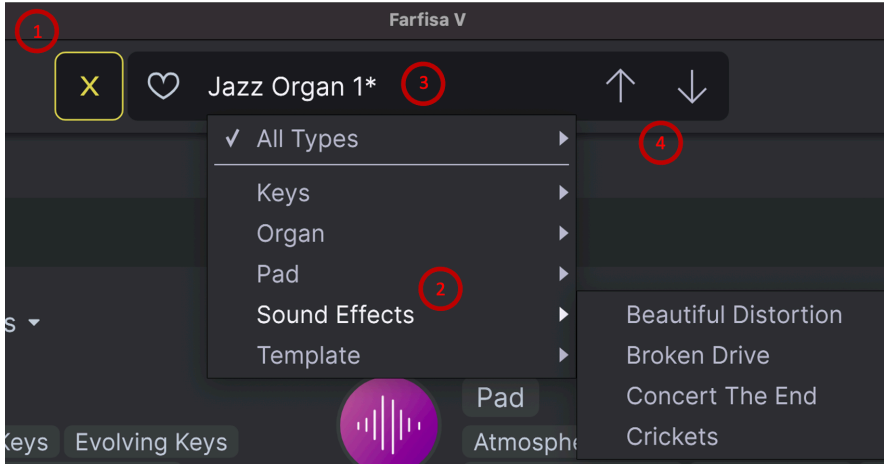
- **Tutorials** : Farfisa V には各機能を紹介するチュートリアルが入っています。チュートリアルの1つを選ぶと Farfisa V の操作方法を順を追ってご紹介するチュートリアルが表示されます。
- **Help** : Farfisa V マニュアルや Arturia ウェブサイトの Farfisa V FAQ (よくある質問) へのリンクが表示されます。ヘルプをご使用の際はインターネット接続が必要です。
- **About** : クリックすると Farfisa V の開発者リストが表示されます。表示された画面をクリックすると閉じます。

3.2.2. プリセットのブラウジング

Farfisa Vには最高のサウンドのプリセットが豊富に入っていますが、あなたにもオリジナルのプリセットをたくさん作っていただければと思っています。豊富なプリセットからのサーチに役立つのが、パワフルで便利な機能を数多く搭載したプリセットブラウザで、欲しいプリセットをすぐに見つけ出せます。

Farfisa V のアッパーツールバーの中央やや左側には本棚の本のようなアイコン (||||\|) があります。これがプリセットライブラリとブラウザのアイコンです。これをクリックすると画面全体にサーチ用画面が表示されます (アッパーとローワーツールバーはそのまま残ります)。この画面で欲しいプリセットをすぐに見つけ出すことができます。この画面の詳細につきましては、[チャプター4 \[p.33\]](#)をご覧ください。

メイン画面に戻るには、プリセットライブラリのアイコン (アッパーツールバーのプリセット名表示部の左) と同じ場所に表示されるオレンジの "X" をクリックします。



ツールバー (上図) のブラウジング機能には、次のようなものがあります：

1. **プリセットブラウザボタン** (上図の "X" のところ)：これをクリックするとプリセットブラウザが閉じます。詳しくは[チャプター4のプリセットブラウザ \[p.33\]](#)をご覧ください。
2. **プリセットフィルター** (上図の "Sound Effects" があるところ)：プリセット全体にフィルターをかけて選択肢を狭くすることができます。例えば、Keys, Organ, あるいは Pad をここで選択すると、そのタグがついたプリセットのみをサーチでき、欲しいプリセットをより早く見つけることができます。この機能を使用するには、このセクションをクリックしてプルダウンメニューを開き、そこに表示される色々なカテゴリー ("Keys", "Sound Effects", "Pad" など) の中から1つを選択します。これによりそのタグがついたプリセットのみが表示され、それ以外のプリセットはフィルタリングされます。こうすることで、プリセット名や矢印アイコンで表示されたプリセットを1つずつチェックすることができます。フィルタリングを解除してすべてのプリセットを表示させるには、このプルダウンメニューを開き、"All Types" を選択します。
3. **プリセット名**：ツールバーのセンター部分にはプリセット名が表示されます。ここをクリックするとプルダウンメニューが開いて他に選択できるプリセットが表示されます。その中にあるプリセット名をクリックするとそのプリセットがロードされ、メニュー以外の場所をクリックするとメニューが閉じます。
4. **矢印アイコン**：プリセットのリスト内の1つ前/1つ先のプリセットを選択する時に使用します。これはプリセット名をクリックして1つ前や1つ先のプリセットをクリックして選択することと同じ動作ですが、こちらのほうがワンクリックで行えるというメリットがあります。

i 1: この矢印アイコンの2つはそれぞれ MIDI マッピングができます。お使いの MIDI コントローラーのボタンにマッピングすることで、マウスを使わずにプリセットを1つずつ選ぶことができます。

3.2.3. アドバンスト機能

Farfisa V はヴィンテージのコンポオルガンを忠実に再現したのですが、現代のミュージシャンが便利に感じる新しく強力な機能も追加しています。こうした追加機能は通常、フロントパネルに隠されていますが、アドバンストパネルを開くと現れるようになっています。そのため、ヴィンテージの Farfisa そのままのサウンドや使用感でお使いになりたいときは、トラディショナルなメインパネルのみを使用することができます。各ノートの個別チューニングやユーザー波形、エンベロープ、色々なタイプのリバーブといった強力な追加機能が必要になったとしても問題ありません — クリック一発でそうした機能が使えるのです！



メインパネルに隠された機能の数々

アップertoolsバー右側にある **Advanced** ボタンをクリックすると、Farfisa V のアドバンストパネルが開きます。このパネルの詳細は、[アドバンストパネル \[p.61\]](#)でご紹介します。このボタンをもう一度クリックするとパネルが閉じてメインパネルに戻ります。また、オルガンのフタ部分ををクリックすることでアドバンストパネルを開くこともでき、Advanced ボタンかフタをクリックして閉じることもできます。

3.2.4. サイドパネルでの各種設定

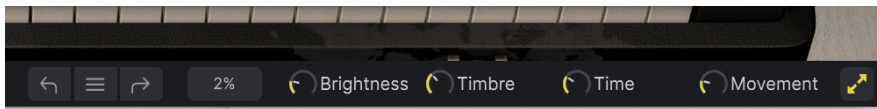
Advanced ボタンの右にはギアの形をしたアイコンがあります。これをクリックすると画面右側から4つのタブが入ったパネルが開きます：

- Settings：グローバル設定 (MIDI 受信チャンネル)
- MIDI：外部コントローラー使用時のための MIDI ラーン機能
- Macro：4つのノブに色々なパラメーターをアサインし、ノブ1つの操作で複数のパラメーターを同時にコントロールできます。
- Tutorials：アプリ内チュートリアルにアクセスできます (メインメニューからもアクセスできます)。

各タブの詳細は、このチャプターの[サイドパネル \[p.25\]](#)でご紹介します。

3.3. ロワーツールバー

Farfisa V の画面底部にはロワーツールバーがあり、一部の重要パラメーターへのクイックアクセスや便利な情報の表示機能が入っています。



- ロワーツールバーの左端部分には情報表示エリアがあり、画面上のノブやスイッチなどのパラメーターの操作時やパラメーターにマウスオーバーしたときに、そのパラメーター名を表示します。また、パラメーター操作時の設定値はそのパラメーター（ノブ等）のとなりに表示されます。
- アンドゥ/リドゥ：エディットの履歴を前後することができます。
 - **アンドゥ (左矢印)**：Farfisa V で行った直前のエディットを取り消します。
 - **リドゥ (右矢印)**：Farfisa V で行った直前のエディットを再実行します。
 - **アンドゥ履歴 (センターのメニューアイコン)**：エディットの履歴がリスト表示されます。リスト内の1項目をクリックすると、その時点のエディット状態を再現します。音作りをしていて、元の音からかなり離れた音に変化してしまった場合、元の音に近い状態に戻したいときに便利です。
- **CPUメーターとパニックボタン**：現在の CPU 消費量を表示します。ここをクリックするとすべての MIDI メッセージを停止する MIDI パニックと MIDI オールノートオフを送信して、音が止まらなくなってしまったときやその他の問題が発生したときに便利です。

i 複数のプラグインインストゥルメントを同時使用している場合や、他のアプリケーション等で複雑なタスクを行っている場合、お使いのコンピュータの CPU パワーが限界に近くなることがありますが、Farfisa V 自体の CPU 負荷はそれほど大きなものではありません。

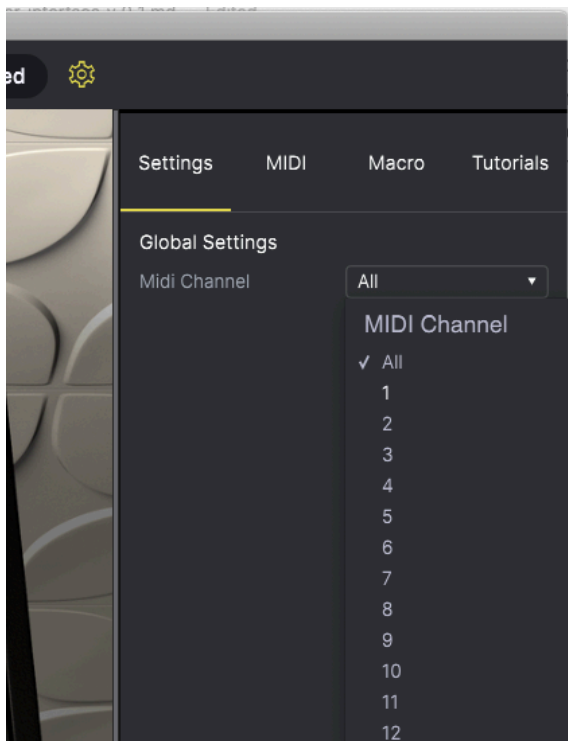
- **マクロノブ**：4つのノブの1つ1つで複数のパラメーターを同時にコントロールできます。パラメーターのアサイン方法などにつきましては、後述の[マクロ \[p.31\]](#)をご覧ください。
- **マキシマイズビュー**：リサイズウィンドウ機能で Farfisa V の画面を拡大表示している場合、画面の一部はディスプレイからはみ出してしまうと表示されなくなり、ロワーツールバーの右端にオレンジ色の矢印アイコンが表示されます。このアイコンがマキシマイズビューボタンです。このボタンをクリックすると、Farfisa V の画面がセンターに再配置され、ディスプレイの下に向かって画面が拡大され、ディスプレイのスペースを有効活用することができます。

3.4. The Side Panel - サイドパネル

アップバーツールバー右端のギアのアイコンをクリックすると便利な4つのタブが入ったサイドパネルが開きます。その内容を左から順に見ていきましょう。

3.4.1. Settings

このタブでの設定は Farfisa V 全体に適用されるグローバル設定で、受信MIDIチャンネルを設定します。すべてのチャンネルを受信する ALL (オムニモード)、または 1-16 のいずれかのチャンネルを選択できます。



サイドパネルでのMIDIチャンネル設定

3.4.2. MIDI Tab - MIDI タブ

このタブでは、お使いの MIDI コントローラーのコントロール類と Farfisa V のパラメーターを MIDI ラーンモードでマッピングすることができます。MIDI ラーンモードに入ると、メインパネル上の MIDI アサイン可能なすべてのパラメーターがハイライト表示になり、そのいずれかをクリックし、MIDI コントローラーのアサインしたいコントロール類を操作することでマッピングが行えます。よくあるマッピングの例としては、エクスプレッションペダルを Master Volume にマッピングしたり、MIDI コントローラーのフエーダー（あるいは DAW のヴァーチャルコントロール）をニーレバーにマッピングするといったものがあります。



The screenshot shows the 'Advanced' settings menu with the 'MIDI' tab selected. The 'MIDI Controller' is set to 'Generic MIDI Control' and 'MIDI Config' is set to 'Default'. A 'Learn' button is present. Below is a table listing MIDI CCs and their parameters:

Ch	CC	Control	Min	Max
1	7	Master Volume	-80.0dB	24.0dB
1	16	AR Env Attack	0.00ms	6000ms
1	17	AR Env Release	0.00ms	6000ms
1	18	Noise	-90.0dB	-30.0dB
1	19	AR Env On/Off	0.00	1.00
1	71	MT Boost	0.00	1.00
1	72	Oboe 8	0.00	1.00
1	73	Bass 16	0.00	1.00
1	74	All Boost	0.00	1.00
1	75	Strings 16	0.00	1.00
1	76	Tremolo Rate	0.150Hz	20.0Hz
1	77	Tremolo On/Off	0.00	1.00
1	79	Flute 8	0.00	1.00
1	80	Trumpet 8	0.00	1.00
1	81	Strings 8	0.00	1.00
1	82	Flute 4	0.00	1.00
1	83	Strings 4	0.00	1.00
1	85	2-2/3	0.00	1.00
1	91	Reverb Mix	0.00%	100%
1	93	Bass Decay	0.00	1.00

At the bottom of the table, there is a '+ Add control' button.

各 MIDI CC に対応するパラメーターのリスト

MIDI タブの **Learn** ボタンをクリックすると Farfisa V はラーンモードに入ります。アサイン可能なパラメーターの表示色がパープルに変わります。アサイン済みのパラメーターの表示色は赤です。



ランモードに入った状態

パープルになっているパラメーターをクリックすると、そのパラメーター名がリストに加わります。次に、お使いの MIDI コントローラーのノブを回したりスイッチを操作します。するとクリックしたパラメーターの表示色が赤に変わり、アサインされた MIDI CC ナンバーがリストのパラメーター名の左に表示されます。

画面上のパラメーターのアサインを解除するには、そのパラメーターを Ctrl クリックか右クリックします。アサインに関するその他の方法は後述の [MIDI Parameter Menu \[p.28\]](#) (MIDI パラメーターメニュー) でご紹介します。

3.4.2.1. Min and Max Values - 最大 & 最小値

リスト内の各パラメーターの Min と Max のコラムで、フィジカルコントローラーのノブ等を操作したときにパラメーター値が変化する範囲を設定します。例えば、MIDI コントローラーから操作したときにアンプのマスターボリュームが変化する範囲を 30%~90% に設定したいとします。その場合 Min=0.3、Max=0.9 と設定します。こうすることで、MIDI コントローラーをどう操作しても 30% 以下や 90% 以上には行かなくなります。こうした設定は、ライブ時に間違っただけで操作してしまったときでも“被害”を最小限に抑えられるといったメリットがあります。

Min や Max の値を上や下にドラッグすることで設定値を変更できます。設定値は 0~1 の少数になります。Min を Max よりも大きい値にセットすることもできます。その場合は、ノブを右に回すと値が小さくなるというように、コントローラーの動きの極性が反転した状態になります。

オンとオフのようにポジションが2つしかないスイッチの場合、コントローラーのボタンにアサインするのが一般的ですが、お好みでフェーダーやその他のコントロールにアサインすることもできます。その場合は、Min=0.00、Max=1.00 に設定します。そうすることで、フェーダーやノブの行程の中間点 (0.5) を越えるとオンかオフのどちらかに切り替わるようになります。3ポジションのスイッチタイプのパラメーターでも同様のことができ、その場合はフィジカルコントロールの行程の1/3の地点を越えるとポジションが切り替わるようになります。

3.4.2.2. 固定 MIDI CCナンバー

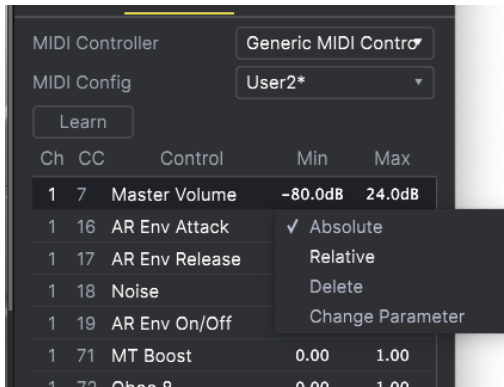
一部の MIDI コンティニュアスコントローラー (MIDI CC) ナンバーは固定で、変更できません。それらは次の通りです：

- コントロールオールノートオフ (CC #123)
- ピッチベンド
- アフタータッチ

その他すべての MIDI CC ナンバーは Farfisa V の任意のパラメーターにアサインできます。

ただし **Knee Lever** (ニーレバー) は特殊ケースです：アドバンストパネルに切り替えると、MIDI CC、ピッチベンド、またはアフタータッチでニーレバーをコントロールできます。

3.4.2.3. MIDI Parameter Menu - MIDI パラメーターメニュー



アサイン済みのパラメーターのリスト内で、どのアイテムでも Ctrl クリックか右クリックをすると、以下のオプションが入った便利なポップアップメニューが表示されます。メニューの内容はパラメーターによって変わることがあります。

- **Absolute**：アサインされた Farfisa V のパラメーターの値は、フィジカルコントローラーから送信された MIDI CC の値をそのまま反映します。
- **Relative**：フィジカルコントローラーからの MIDI CC の値を受信すると、現在のパラメーター値から上がったり下がったりします。お使いのコントローラーが360度回るロータリーエンコーダー装備の場合、このモードが便利です。
- **Delete**：コントローラーとパラメーターとのアサインを解除します。この時、そのパラメーターの表示色はパープルに戻ります (MIDI ラーンモード時)。
- **Change Parameter**：アサイン可能な Farfisa V のパラメーターが選べる大きなサブメニューが表示され、現在の MIDI CC とフィジカルコントローラーのアサインを手動で変更できます。変更したいパラメーターがすでに分かっているときに便利です。





上記の Change Parameter と同じサブメニューは、画面下部の + Add Control をクリックしたときにも表示されま

ず。

3.4.2.4. MIDI Controller menu

MIDI タブの最上部右側にはドロップダウンメニューがあり、そこには Arturia 製 MIDI コントローラー用のテンプレートが多数入っています。このテンプレートには Farfisa V で "よく使うパラメーター" のマッピングが入っており、プラグアンドプレイですぐにコントロールすることができます。また、サードパーティ製の MIDI コントローラーで使用できる汎用テンプレートも入っています。



Advanced 

Settings MIDI Macro Tutorials

MIDI Controller: Generic MIDI Contro

MIDI Config: Default

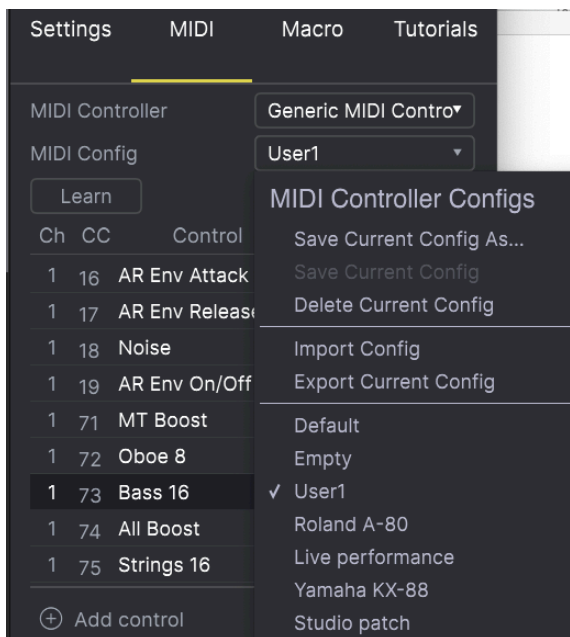
Learn

Ch	CC	Control	Min	Max
1	7	Master Volume	-80.0dB	24.0dB
1	16	AR Env Attack	0.00ms	6000ms
1	17	AR Env Release	0.00ms	6000ms
1	18	Noise	-90.0dB	-30.0dB
1	19	AR Env On/Off	0.00	1.00
1	71	MT Boost	0.00	1.00
1	72	Oboe 8	0.00	1.00
1	73	Bass 16	0.00	1.00
1	74	All Boost	0.00	1.00
1	75	Strings 16	0.00	1.00
1	76	Tremolo Rate	0.150Hz	20.0Hz
1	77	Tremolo On/Off	0.00	1.00
1	79	Flute 8	0.00	1.00
1	80	Trumpet 8	0.00	1.00
1	81	Strings 8	0.00	1.00
1	82	Flute 4	0.00	1.00
1	83	Strings 4	0.00	1.00
1	85	2-2/3	0.00	1.00
1	91	Reverb Mix	0.00%	100%
1	93	Bass Decay	0.00	1.00

 Add control

3.4.2.5. MIDI Config Menu

MIDI タブのもう1つのドロップダウンメニューでは、MIDI コントローラーで Farfisa V をコントロールする色々な MIDI マッピングのセットを管理することができます。マッピングセットのセーブや別名セーブ、削除やマッピングファイルのインポート、選択したセットのエクスポートができます。



これにより、Farfisa V をコントロールする MIDI コントローラーを変更するときなどに、その都度マッピングを最初から作り直す時間が省けます。

例えば、ライブ用にはコンパクトなキーボード、レコーディングではマスターキーボードやパッドタイプのコントローラーというように、複数の MIDI コントローラーをお持ちの場合、それぞれのマッピングを作成しておけば、それを切り替えるだけですぐにコントロールすることができます。これにより、マッピングをやり直す時間を大幅に短縮できます。

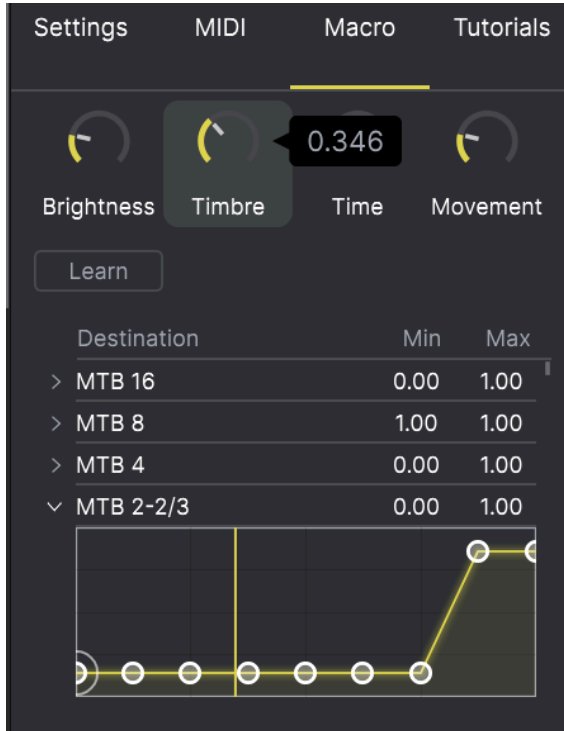
このメニューには、次の非常に強力なオプションがあります：

- **Default**：ある程度のマッピングがされているもので、マッピング作成のスタートポイントとして利用できます。
- **Empty**：すべてのアサインを削除します。

3.4.3. Macro Tab - マクロタブ


マクロタブでは、ローツールバー右側にある4つの Macro ノブのアサインを管理します。1つのノブに複数のパラメーターをアサインでき、Macro ノブ自体を [MIDIラン](#) [p.26] でフィジカルコントローラーにアサインすることができます。

 マクロの設定はプリセットごとにセーブできます。



3.4.3.1. マクロスロット


設定を変更したい Macro ノブをクリックして選択します。デフォルトのマクロ名はそれぞれ Brightness, Timbre, Time, Movement ですが、タブ中段のネームフィールドをクリックするとリネームできます。ここでリネームした名称はローツールバーにも反映されます。

 上図は *Timbre* ノブを選択している状態です。*Timbre* ノブの現在値は 0.346 で、このノブには4つの MTB (MultiTone Booster) スイッチがアサインされています。図の下部では MTB 2-2/3 スイッチの動作カーブが開いており、*Timbre* ノブを最大値付近まで回さないと MTB 2-2/3 のボイスが発音しない設定になっています。また、MTB 8 の Min/Max の値が両方もとも 1.00 になっています。これは、*Timbre* ノブがどの値であっても常時オンになるという設定です。Macro ノブが実際に何をするのは、各パラメーターのカーブを見ないことには正確には分かりません。続けて次のセクションもご覧ください。

3.4.3.2. マクロの作成

Macro タブの **Learn** ボタンをクリックすると MIDI アサインと同様の手順でアサイン可能なパラメーターはパープルの表示色になり、アサイン済みのものは赤で表示されます。パープルのパラメーターをクリックするとそのパラメーター名がリストに加わります。


マクロからパラメーターを削除するには、リストにあるパラメーター名を右クリック (Mac の場合は Ctrl クリック) し、表示されるポップアップにある **Delete** をクリックします。マクロにアサインしたパラメーターは Min/Max の値を設定でき、パラメーターの MIDI アサインの時と同様、Min/Max それぞれの数値をドラッグすることでパラメーター値が変化する範囲を設定できます。また、Min の値を Max よりも高くすることで Macro ノブを上げるとパラメーター値が下がるという動きに設定することもできます。

 Macro に設定すべきパラメーターのルールというものはありません。理屈だけで言えば関連性のないパラメーターを大量に Macro ノブにアサインしてベットの名前をノブの名称にすることもできますが、実用上は比較的わかりやすい名称しておくのがベターでしょう。

3.4.3.3. マクロのカーブ


単純なスケーリング以外に、マクロにアサインした各パラメーター値が最低値から最高値までの間を変化するカーブをカスタマイズでき、Macro の動きでそれを再現することができます。リストのパラメーター名のとなりにある > アイコンをクリックするとカーブ画面が表示されます。

カーブの線上をクリックすると小さな円のブレイクポイントが追加されます。これをドラッグしてポイント間のカーブを作っていくことができます。ポイントを右クリック (Mac では Ctrl クリック) するとポイントを削除できます。最初と最後のブレイクポイントは削除できません。

 シンプルな対角線にするとリニアになりますが、リニア以外のカーブにすると楽しくなる可能性があります。

3.4.4. Tutorials - チュートリアル

このチュートリアルタブは、[メインメニュー \[p.17\]](#)の Tutorials を選択することで開くことができます。このタブでは各チャプターのタイトルをクリックすると Farfisa V の色々な機能を順を追って学ぶことができます。また、テーマにしているパネル部分がハイライト表示になります。

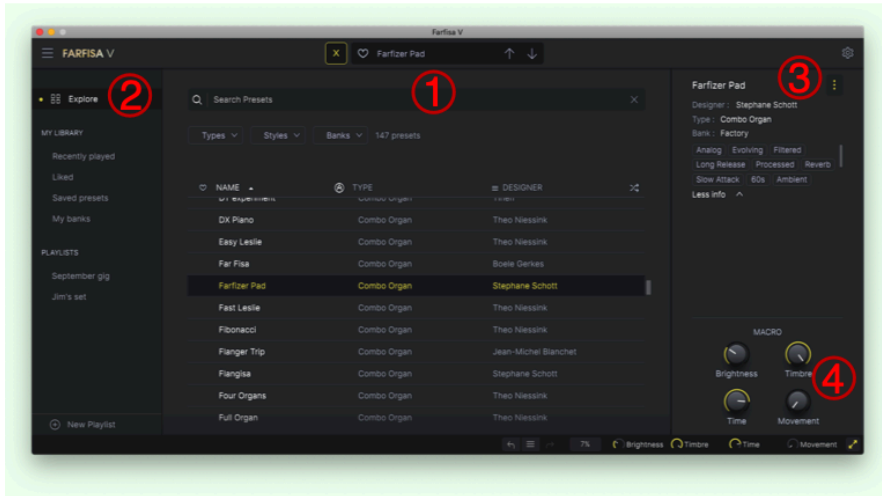
 プリセットをエディット中のときは、チュートリアルを開く前にセーブしておきましょう。これはチュートリアルを開くを新規プリセットロードしてエディット中の内容を上書きしてしまうためです。また、チュートリアルはサイドパネルのスペースに開きます。

4. THE PRESET BROWSER

プリセットブラウザは、Farfisa Vのプリセットのサーチやロード、管理を行うところです。用途によって表示が色々変わりますが、参照しているものは同一のプリセットバンクです。

サーチ画面にアクセスするには、ブラウザボタン（本棚の本のようなアイコン：|||\\）をクリックします。ブラウザを閉じるには、同じ位置に表示されるXをクリックします。

プリセットブラウザには4つのメインエリアがあります：



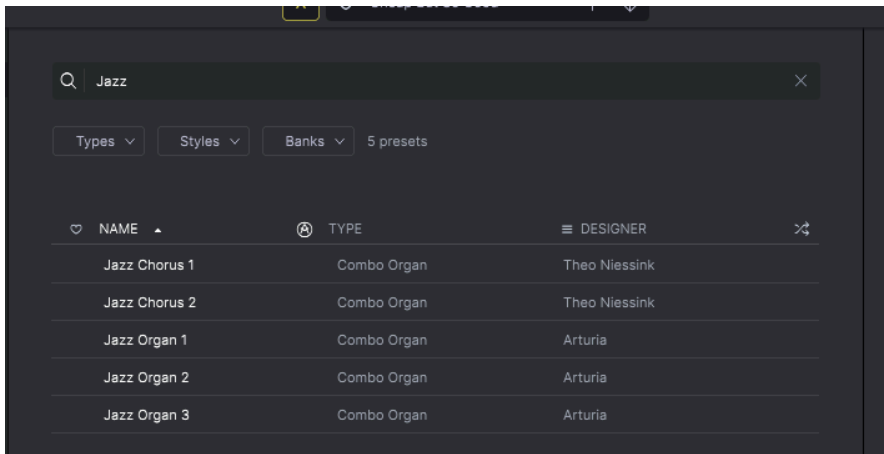
プリセットブラウザの全景

#	エリア	内容
1	Search and Results [p.33]	検索ワードや Type, Style のタグでプリセットをサーチします。
2	Sidebar [p.39]	バンクやプレイリストの管理を行います。
3	Preset Info [p.35]	選択したプリセットのバンクやタグ、作成者名、その他の情報を表示します。
4	Macro Knobs [p.42]	ロワーツールバーの Macro ノブの拡大表示版です。

4.1. Search and Results - サーチ&リザルト

ブラウザ最上部のサーチフィールドをクリックして検索ワードを入力します。この時、ブラウザは2つの方法でプリセットをフィルタリングします。1つは検索ワードに一致したプリセット名、もう1つは検索ワードが **Type**や**Style** [p.35] に近い場合、そのタグを使用しているプリセットもサーチ結果に含めます。

サーチフィールドの下に検索結果が表示されます。サーチフィールドの右にあるXをクリックすると検索ワードが消去されます。



Jazz を検索ワードに入力した状態



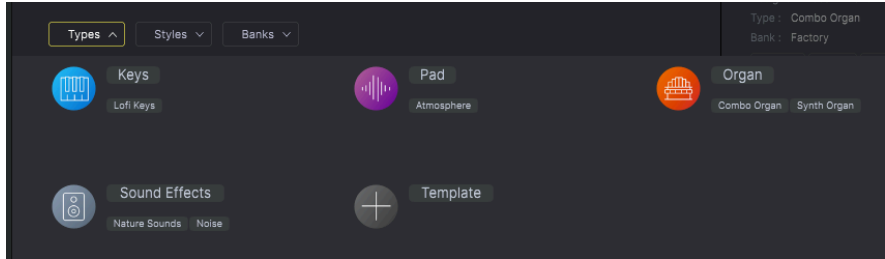
すべてのプリセットからサーチするには、左サイドバーで **Explore** を選択してください。

4.2. Using Tags as a Filter - タグでフィルタリング

色々なタグを使うことで絞り込み検索ができます (場合によっては逆に広がることもあります)。タグには Type と Style の2種類があります。どちらか一方だけでなく、両方を同時使用できます。

4.2.1. Types

Types は Bass, Lead, Strings, Pad, Organ など、楽器別や用途別のカテゴリです。検索バーに検索ワードを入れていない状態で、Types ボタンをクリックすると Types のリストが表示されます。各 Type にはサブタイプがあるものもあります：

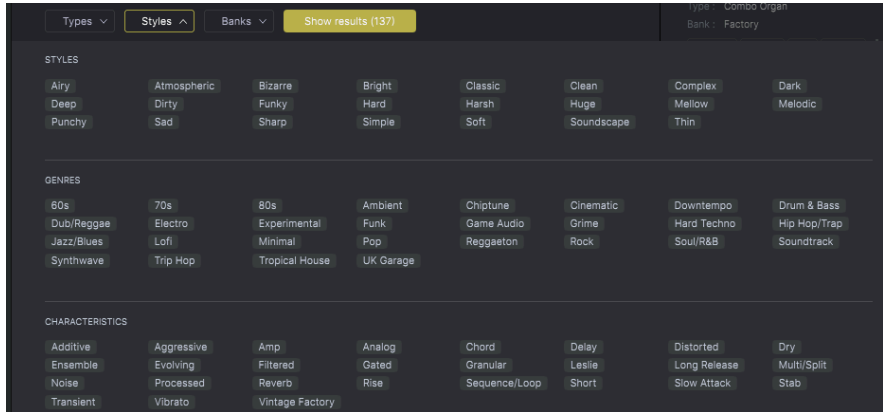


Type のいずれかをクリックするとそのタグに合致したプリセットが表示されます。複数のタイプを選択するときは、Cmd+クリック (macOS) か Ctrl+クリック (Windows) します。例えば、探したいプリセットのタグが Keys なのか Pad なのか覚えていないときは、両方のタグを選択して検索対象を広げることができます。

4.2.2. Styles

Styles は Types よりも具体的な音楽的属性のタグですので検索の精度をより高めることができます。Styles ボタンをクリックすると、次の3つのサブディヴィジョンがあります：

- **Styles** : Atmospheric, Dirty, Clean, Complex, Mellow など、一般的な雰囲気を表すタグ
- **Genres** : 60s, Jazz/Blues, Pop, Soul/R&B, UK Garage など、音楽ジャンルや年代を表すタグ
- **Characteristics** : Analog, Evolving, Distorted, Dry, Rise など、音色の特徴を表すタグ



タグをクリックするとそれが選択されます。もう一度クリックするか右クリックをすると選択が解除されます。タグを選択するといくつかのタグが選択できない状態になることがあります。これは、ブラウザが消去法で検索結果を絞り込んでいるためです。選択しているタグを減らすと、そのタグがサーチ対象から外れて、最初からすべてをやり直すことなくサーチ対象を広げることができます。

4.2.3. Banks

Types、Styles の次にあるボタンが Banks ボタンです。前者2つによるサーチ対象をこのボタンで Factory, Owned, User の各バンクに限定することができます。

バンクをクリックするとそれが選択されます。複数のバンクを選択するには、Cmd+クリック (macOS) または Ctrl+クリック (Windows) します。選択したバンクを再びクリックすると選択を解除します。

4.3. サーチ結果表示

サーチ結果のリストが表示されていないときは **Show Results** ボタンをクリックします。リストのいずれかのコラム最上部の矢印ボタンをクリックすると ABC 順のリストが逆順に切り替わります。

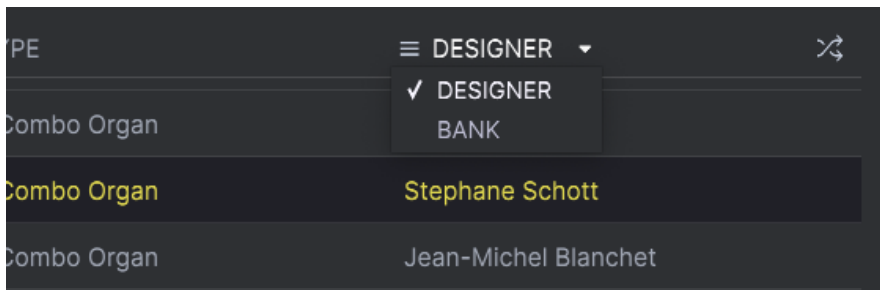
4.3.1. リストの並べ替え

サーチ結果リストの左側のコラムの **NAME** ヘッダをクリックするとリストがプリセット名の ABC 順かその逆順に並びます。

2つ目のコラムの **TYPE** ヘッダをクリックするとタイプの ABC 順かその逆順でリストが並び替わります。

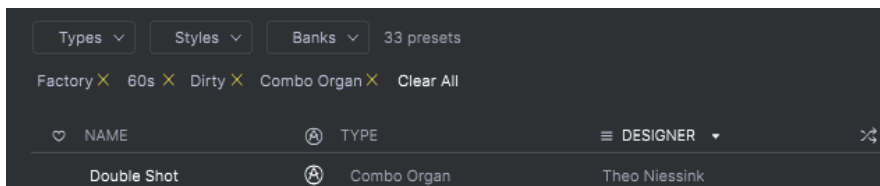
TYPE の左にある **Arturia** ロゴ をクリックするとファクトリーの "おすすめ" プリセットがリストのトップに表示されます。このプリセットは "いいね" (♥) コラムを選択している場合、[Liked \[p.38\]](#) (いいね) をしたプリセットのすぐ下に表示されます。

3つ目のコラムのヘッダには **DESIGNER** と **BANK** の2つがあり、横3本線のアイコンをクリックするとポップアップメニューが開いてどちらかを選択できます。



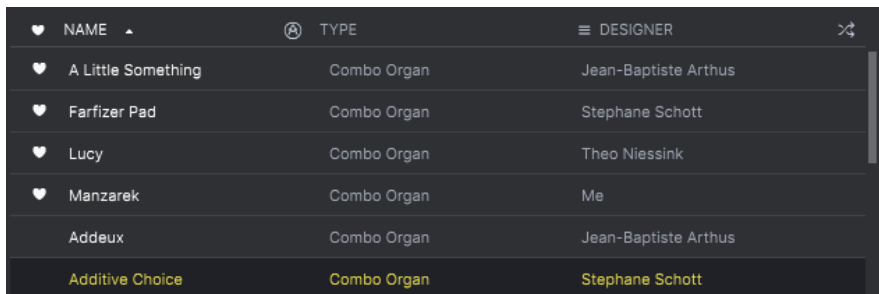
4.3.2. タグを外す

Types, Styles, Banks ボタンのすぐ下には、サーチに使用したすべてのタグが表示されます。各タグ名の右にある X をクリックするとそのタグが外れます (その結果サーチ対象が広がります)。**Clear All** をクリックするとすべてのタグが一斉に外れます。



4.3.3. Liking Presets - "いいね"をつける

プリセットを色々チェックしたり作成するときに、プリセット名の横にある **ハート** をクリックして気に入ったプリセットとしてマーキングしておくことができます。その後、ハードのアイコンをクリックすると、すべての "いいね" をつけたプリセットがサーチ結果リストのトップに表示されます。



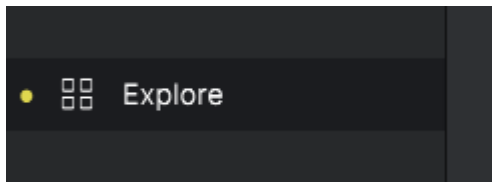
♡ NAME	TYPE	DESIGNER
♡ A Little Something	Combo Organ	Jean-Baptiste Arthus
♡ Farfizer Pad	Combo Organ	Stephane Schott
♡ Lucy	Combo Organ	Theo Niessink
♡ Manzarek	Combo Organ	Me
Addeux	Combo Organ	Jean-Baptiste Arthus
Additive Choice	Combo Organ	Stephane Schott

いいねをつけたプリセットがリストのトップに表示されます

並べ替えやフィルタリング機能を必要に応じて使うことで、欲しいサウンドをいつでもすぐに見つけ出すことができます。

4.4. Left Sidebar - 左サイドバー

プリセットブラウザの左側のセクションでは、[Search and Results \[p.33\]](#) セクションに何を表示するかを設定します。最上部のオプションが下図です：



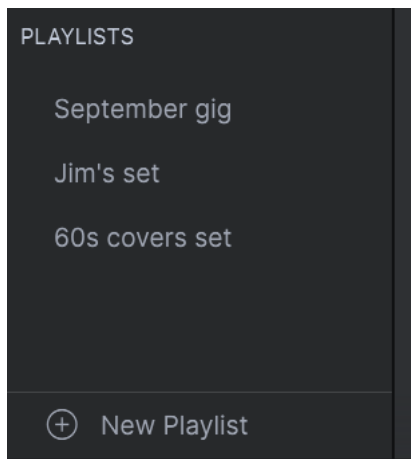
Explore セクションがデフォルト設定で、前述のセクションで行ったのと同じように Farfisa V にロードされているすべてのプリセットを色々見て回ることができます。

4.4.1. My Library

このセクションでは、現在アクセスしている Farfisa V のすべてのプリセットとバンクの中から以下のオプションを使ってプリセットを見つけ出すことができます。

- **Recently played** : 最近使用したり、最近最初に表示されたプリセットです。例えば昨日やそれ以前に最高に楽しんだプリセット名を思い出せないときなどに非常に便利です。
- **Liked** : ハートアイコンで"いいね"をつけたプリセットです。サーチ結果リスト内のプリセット名にマウスオーバーすると、ハートアイコンが表示され、それをクリックすると Liked のリストに追加されます。
- **Saved presets** : **メインメニュー**の Save か Save As でセーブしたプリセットです。
- **My banks** : **Show User banks only** にチェックを入れていない状態では、ファクトリーバンクと、インポートしたり作成したバンクのアイコンが表示されます。バンクのアイコンをクリックすると、その内容を確認できます。

4.4.2. プレイリストエリア

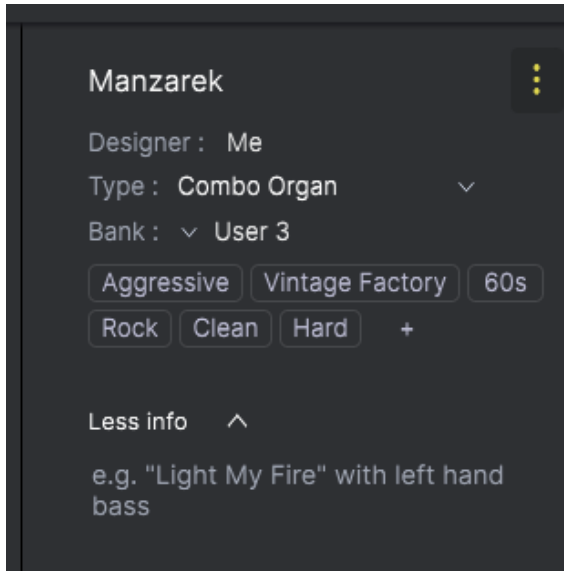


サイドバーの下部にはインポートしたり作成したプレイリストが表示されます。プレイリストはライブのセットリストを管理する非常に強力なツールです。詳しくは後述の [Playlists \[p.43\]](#) (プレイリスト) をご覧ください。

4.5. プリセットインフォ (右サイドバー)

ブラウザ画面の右サイドにある **More info** をクリックすると、プリセットの情報が表示されます。ユーザープリセット (ファクトリープリセットではありません) では、プリセット名や作成者名、Type、Bank などの情報を編集できます。

！ ユーザープリセットのプリセット名を変更したり、コメントやタグを追加したい場合は、最初に画面右上にあるドットが3つ縦に並んだアイコンをクリックしてメニューを開き、その中にある **Save As** コマンドでそのプリセットをユーザープリセットとしてセーブする必要があります。ユーザープリセットとしてセーブした後は、そのプリセットの情報を編集できます。なお、ファクトリープリセットは上書きセーブはできません。



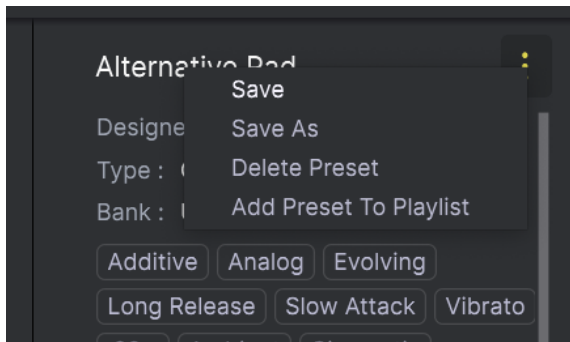
各種編集するにはテキストフィールドにタイプしたり、プルダウンメニューで Bank や Type を選択します。プリセットの Style を追加/削除するときは、+ サインをクリックして画面中央部に **Edit Styles** 画面を開きます。その画面で **STYLES** や **GENRES**、**CHARACTERISTICS** のタグをクリックして追加できます。すでにハイライト表示になっているタグをクリックするとそのタグがプリセットから削除されます。



ここで Types や Styles を変更するとサーチ結果に反映されます。例えば、あるユーザープリセットから "Vintage Factory" の Style タグを削除してセーブした場合、そのプリセットは Vintage Factory のタグでサーチしてもヒットしなくなります。

Edit Styles メニュー画面の右上コーナー部分の X をクリックするとこの画面が閉じて**サーチ画面**に戻ります。

4.5.1. プリセットインフォのミニメニュー



プリセットインフォ画面の右上コーナー部分にはドットが3つ縦に並んだアイコンがあります。このアイコンをクリックすると **Save, Save As, Delete Preset, Add Preset To Playlist** といったコマンドが選択できます。(Add Preset To Playlist は、選択しているプリセットを最後に選択したプレイリストの末尾に追加するコマンドです。)

4.6. プリセットの選択：別の方法

アッパーツールバー中央部のプリセット名をクリックするとドロップダウンメニューが開きます。このメニューのトップにあるオプションは **All Types** で、そこには文字通り現在選択しているバンク内のすべてのプリセットが選択できるサブメニューが入っています。

それ以下には **Type** タグ順のオプションが並んでいます。各オプションにもそのタイプ内のすべてのプリセットが選択できるようにサブメニューが入っています。

Type や Style のタグでサーチをしているときは、プリセット名の右の上下の矢印アイコンで検索結果で表示されたプリセットを1つつ順に切り替えることができます。



サーチ中でも、ドロップダウンメニューの "All Types" はサーチの影響を受けません。同様に All Types の下の線以下の Type もサーチの影響を受けず、常にそこからサブメニューに入ってそのタイプに含まれているすべてのプリセットを選択することができます。

4.7. Macro Knobs - マクロノブ

このマクロノブはロワーツールバーに表示されるマクロノブの拡大版です。ここのノブを回すとロワーツールバーにある同じノブも同様に回ります。

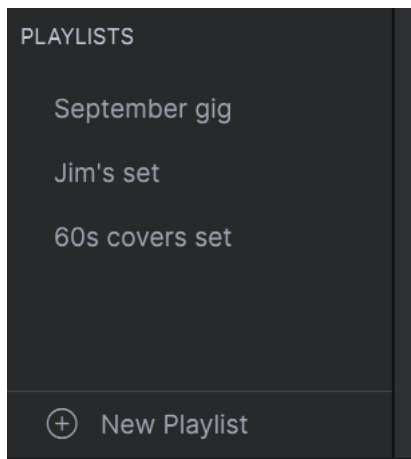
パラメーターをマクロにアサインする方法は、[チャプター3の Macro Tab \[p.31\]](#) をご覧ください。

4.8. Playlists - プレイリスト

プリセットブラウザ画面の左下部分にはプレイリスト機能があります。プレイリストとは、ライブのセットリストやレコーディングで使用する予定のプリセットなど、特定の木底のためにプリセットをグルーピングすることができる機能です。

4.8.1. プレイリストの作成

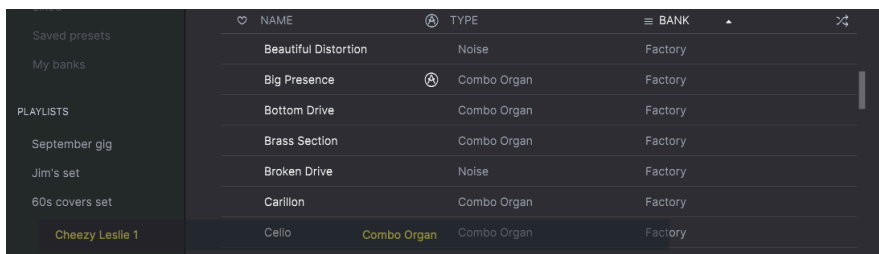
プレイリストを作成するには、サイドバー底部の **New Playlist** ボタンをクリックします。



プレイリストに名前をつけるとそれがサイドバーのプレイリストメニューに表示されます。

4.8.2. プリセットの追加

Explore 画面のすべてのオプションを使用して、プレイリストに入れたいプリセットをサーチできます。目的のプリセットが見つかりましたら、それをプレイリスト名にドラッグします。



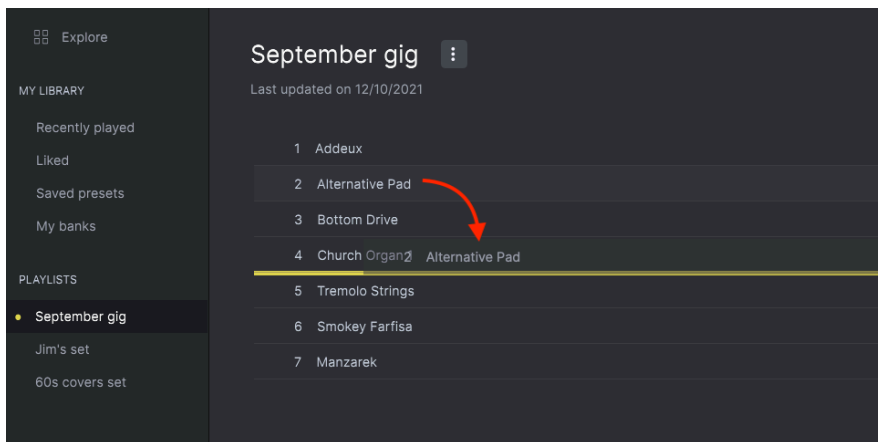
サーチ結果リストからプレイリストにドラッグ

プレイリスト名をクリックするとその内容が表示されます。

トップにある **Save** ボタンをクリックすると編集したプレイリストの内容をセーブします。

4.8.3. プリセットの並べ替え

プレイリスト内のプリセットは並べ替えができます。例えば、スロット2から4にプリセットを移動させたいときは、それを目的の位置にドラッグ&ドロップします。



移動先の位置が黄色の線で表示されます

プリセットを移動するとその移動に合わせて他のプリセットの位置もプレイリスト内で移動します。ドラッグ&ドロップで移動するときには、黄色の線が移動先の"挿入ポイント"に短時間表示されます。

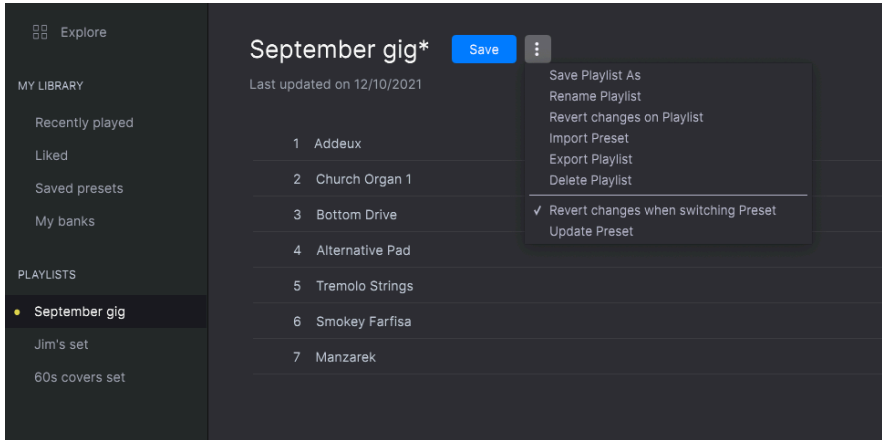
4.8.4. プリセットの削除

プレイリストからプリセットを削除するには、そのプリセット名を右クリックしてポップアップメニューを開き、Delete を選択します。

このメニューには Copy, Paste, Duplicate, Save As のオプションもあります。その他にも後述のように豊富な管理オプションがあります。

4.8.5. プレイリストの管理

プレイリストを選択し、検索結果エリアのプレイリスト名の横にあるドットが3つ縦に並んだアイコンをクリックします。するとプレイリストの管理用オプションが入ったプルダウンメニューが開きます。



未セーブの場合、プレイリスト名の後ろにアスタリスクが付きます。

- **Save Playlist As** : プレイリストをコピーして別名でセーブします。セーブ前に名前を変更できます。
- **Rename Playlist** : 選択したプレイリストの名前を変更します。
- **Revert changes on Playlist** : プレイリストに行ったエディット (セーブ前のもの) をすべてキャンセルします。次のセクションの [プレイリスト内のプリセットのエディット \[p.46\]](#) をご覧ください。
- **Import Preset** : これを選択するとダイアログが開いてコンピュータに保存されているプレイリストファイルをインポートできます。
- **Export Playlist** : プレイリストをファイルとしてコンピュータに書き出します。書き出したファイルには ".aplst" の拡張子が付きます。
- **Delete Playlist** : 選択しているプレイリストを削除します。その中にあったプリセット自体は削除されません。
- **Revert changes when switching Preset** : プレイリストのセーブ時にこれにチェックが入れていると、Farfisa V は選択しているプリセットで行ったエディットのみをセーブします。チェックを入れていない場合は、そのプレイリスト内のプリセットで行ったエディットがすべてセーブされます。
- **Update Preset** : 選択しているプリセットのセーブを一度だけ行います。このオプションがあるのは、"Revert changes on Playlist" を実行してもそのプリセットに行ったエディットはキャンセルしないようにするためです。

4.8.6. Editing a Preset Within a Playlist - プレイリスト内のプリセットの編集

使用するシチュエーションに応じて、プリセットをエディットする必要がある場合もあるかと思いますが。例えば、リハの段階では問題がなかったプリセットでも、ライブ会場の PA からの音を聴いたら、もっと音抜けを良くしたほうが良いと思うこともあるかと思いますが。プレイリストに入っているプリセットのデータは、プレイリストの一部としてセーブされますので、これをエディットしても元のメインライブラリのプリセットデータは影響されません。ただし、プリセット名は同一ですので、混乱を避けたいときは **Save Preset As** で別名セーブしましょう。

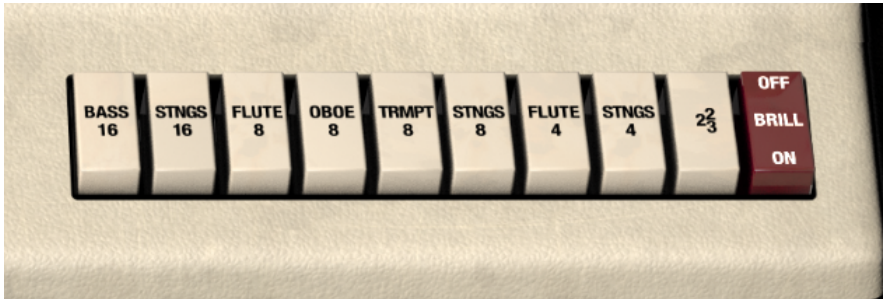
5. MAIN PANEL AND FEATURES

5.1. フロントパネル

Farfisa V のフロントパネルで音作りやエフェクトの設定などを行います。Farfisa V はオリジナルの Farfisa Combo Compact Deluxe と Compact Duo のフロントパネルの機能をモデリングし、さらに追加機能をフロントパネルの下に隠しており、それらの機能はアドバンストパネルを開くと使用できます。

オリジナルの回路図を使ってオシレーターや分周器など音源部の基本部分や、Multi-Tone Booster やトレブル、ベースといったボイスフィルター、ピブラートやリビート/パーカッション、トレモロの内蔵エフェクト、そしてプリアンプ（ノイズ/電源ハムを含む）の数学的モデルを作成しました。次に、このモデリングと Farfisa Compact Duo の実機や、その他のモデルを録音したものを比較し、よりヴィンテージ感が出るように微調整を加えていきました。また、Compact Duo 実機の内蔵スプリングリバーブのインパルスレスポンスも収録し、本物そのものの効果を引き出しています。

5.1.1. トレブルボイス



パイプオルガンのストップ（音栓）のような見た目のフロントパネル右側の白いボイスタブには、次の2つの機能があります：

1. 各キーのピッチ（16', 8', 4', 2½'）選択（複数選択可）
2. 各ピッチのフィルター（Flute, Strings など）選択

i ピッチの数字にはどんな意味があるのでしょうか？パイプオルガンでは、中央 C のパイプの長さが 8 フィートで、その1オクターブしたのパイプは 16 フィートの長さ、1オクターブ上は 4 フィートでした。2½' のパイプは1オクターブ上の C の上の G で、中央 C の3倍音です。これらのタブ（16', 8', 4', 2½'）をすべてオンにすると、キーボードで1音押さえただけでも実際には3つのオクターブと5度というように、合計4つのオシレーターが同時に発音します。Hammond や VOX Continental のようなオルガンは、最初の白いドローパーは 8' で、次が 4'、最初の黒いドローパーは 2½' というように、ドローパー配列は同じようなものでした。

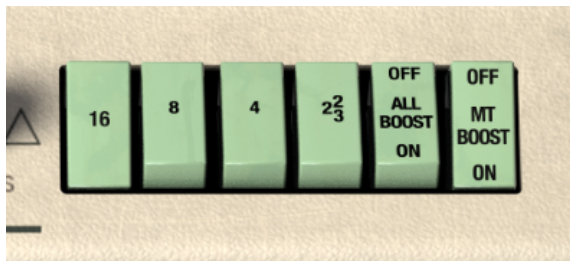
音色タブをどんどんオンにしていくと、その分だけ倍音の多い分厚い音になっていきます。逆に、オンになっている音色タブが少ないときは、より細い音になります。音色タブは演奏中にオン/オフできます（MIDI コントローラーからでも操作できます）ので、リアルタイムに音色を変化させることができます。これは例えば曲のAメロ部分とサビで音色タブを切り替えてサウンドに変化をつけるというように、オルガニストの間では一般的なテクニックです。このテクニックは少し練習すればすぐに習得できます！

音色タブの **BASS 16** と **STRINGS 4** をオンにしている場合、16' と 4' のピッチは Bass と Strings のボイスフィルター両方に入ります。ここで重要なポイントは、各フィルターは完全に分離しているわけではなく、互いにかなり相互作用を受けますので、同じ音色タブでもピッチが違う場合は音色が微妙に異なります。例えば、**FLUTE 8** と **STRINGS 8** をオンにしたときの音色は、**FLUTE 4 + STRINGS 4** の音色とまったく同じというわけではありません。

BASS 16 と **FLUTE 8/4** の各ボイス (別名"ラウンドトーン") は、左側のグリーンのタブの **MT Boost** ボイスを元にした音色で、その他の白いタブのボイス (別名"シャープトーン") はそれぞれ固有のグローバルボイスフィルター回路による音色です。

BRILLIANT タブは、白の **2%** タブの音色を明るくしたいときに使用します。白の **2%** タブ がオフのときは、**BRILLIANT** タブをオンにしても音色は何も変化しません。

5.1.2. Multi-tone Booster (MTB) Voices

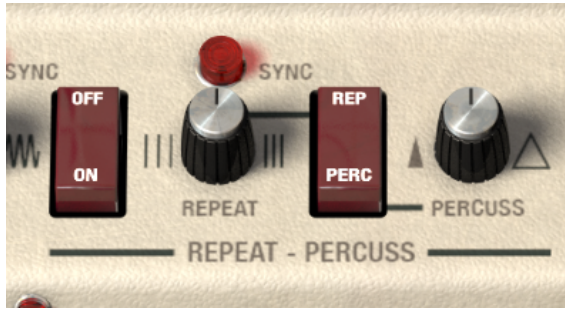


Multi-Tone Booster (MTB) ボイスは、トレブルボイスの音色をメロウなものからブライトなものまで簡単にしかも演奏中に変化させることができるもう1つの音色タブセットです。 **MT BOOST** タブ (グリーン) をオンにすると MTB がオンになり、白いタブのトレブルボイスはオフになりますので、別々のボイスの組み合わせを瞬時に切り替えることができます。

i オーディオインターフェイスが正しく動作していても、Farfisa Vからの音が出ないときは、音色タブがオフになっていないかを確認してみてください。音を出すには、MTB カトレブルボイスのどちらかの音色タブが最低でも1つはオンにする必要があります。

MTB モードでは各キーのピッチの組み合わせ (16', 8', 4', 2 $\frac{2}{3}$) を自由にセットできます。この MTB モードでは、各タブに一連のローパスフィルターが内蔵されており、音色の明るさ (ブースト) を調整できます。ブーストがまったくかかっていない状態の音色は、トレブルボイスの **FLUTE** タブと同様の音色ですが、MTB モード限定で **ニールバー** を操作することで音色をよりブライトにすることができます。また、**ALL BOOST ON** でフルブーストにした状態 (ニールバーが100%の状態) にすることもできます。

5.1.3. REPEAT - PERCUSS controls



オリジナルの Compact Deluxe と同様、パーカッションやリピート機能を使った音作りも可能です。このセクションには次のようなコントロールがあります：

- **ON/OFF** (左側のスイッチ)：リピート/パーカッション機能のオン/オフを切り替えます。
- **Repeat SYNC**：リピートの周期を DAW のテンポに同期させます。赤いランプをクリックすると同期のオン/オフが切り替わります。
- **REPEAT** ノブ：Repeat SYNC が点灯している場合、リピート周期は全音符x2、全音符、2分音符、4分3連、4分音符、8分3連、8分音符、16分3連、16分音符のいずれかに設定できます。
- **SYNC** がオフの場合、リピート周期は DAW のテンポと同期せず、REPEAT ノブが最小値のときは 0.150Hz (6.7秒で1周) から最大値の 20Hz までの範囲で変化します。
- **REP/PERC** スイッチ：アッパーキーボードでのリピートかパーカッションかを切り替えます。PERC モードでは打鍵時にパーカッション音を発音し、リピートしません。
- **PERCUSS** ノブ：パーカッションのディケイタイムを FAST, MEDIUM, SLOW のいずれかにセットします。

5.1.4. TREMOLO control

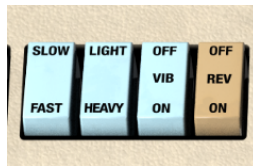
トレモロはオリジナルの Farfisa と同様、音量（振幅）にモジュレーションをかけることができる機能です。音量にかかるとのがトレモロで、ピッチにかかるとのがビブラートです。ローフリケンシーオシレーター (LFO) で音量が変化するスピードを設定し、音量が周期的に大きくなったり小さくなったりするのが一般的です。



- **TREM ON/OFF** : トレモロのオン/オフを切り替えます。
- **TREMORO Rate ノブ** : トレモロの周期を調節します。ノブを左へ回すと周期が遅くなり、右へ回すと早くなります。
- **Tremolo SYNC** : このスイッチがオンの場合、トレモロの周期は DAW のテンポに同期します。この赤いランプをクリックすることで同期のオン/オフが切り替わります。同期がオンの場合、Rate ノブではトレモロの周期を全音符x2、全音符、2分音符、4分3連、4分音符、8分3連、8分音符、16分3連、16分音符のいずれかに設定できます。
 - 非同期モードではトレモロの周期は音符単位ではなく Hz 単位で表示され、最低値は 0.150Hz (6.7秒で1周) から最高値の 20Hz の範囲で調整できます。

5.1.5. Reverb and Vibrato controls

リバーブセクションは次のチャプターでご紹介しますリバーブタイプと連動しています。詳しくは、[アドバンストパネル：リバーブセクション \[p.68\]](#)をご覧ください。このセクションの各コントロールには次のような機能があります：



- **SLOW/FAST** : ビブラートのスピードを2段階で切り替えます。
- **LIGHT/HEAVY** : ビブラートの深さを2段階で切り替えます。
- **VIB ON/OFF** : ビブラートのオン/オフを切り替えます。
- **REV ON/OFF** : リバーブのオン/オフを切り替えます。オリジナルではリバーブのタイプとレベルは設定できませんでしたが、Farfisa V ではアドバンストパネルで設定できます。

5.1.6. The Bass Manual section

Farfisa Compact Deluxe の素晴らしい点の1つに、1段鍵盤でもベースとトレブルセクションがあった点です。つまり、必要に応じてキーボードを2つのパートに分割して演奏できました。また、ベースパートをオフにしてキーボード全域をアッパーパート (トレブルボイス) で演奏することもできました。ベースパートの音色は太くてヘヴィなものでしたのでベースプレイヤーの代わりとして十分に使用できました。さらに、Farfisa V のアドバンスパネルでは、キーボードの低音域をまったく別の波形による音色でオルガン全体のサウンドを分厚くできるもう1つのオルガンパート ("ロワーマニュアル") として使用することもできます。詳しくは [The Bass Wave section \[p.63\]](#) をご覧ください。

♪ キーボードプレイヤーが左手でベースパートを弾いていたバンドで最も有名なのは Doors でした (もともとキーボードの Ray Manzarek が使っていたキーボードは Fender Rhodes Piano Bass と VOX Continental か Gibson オルガンでしたが)。Farfisa Combo Compacts にはマルチピンのコネクタがあり、そこにメーカーオプションの13鍵ベースペダルを接続してベースパートを足で演奏することができました。



Bass Manual セクションのコントロールは左から順に次のようなものがあります：

- **BASS MANUAL** ボリュームノブ：ベースパートの音量を調整します。ノブを右へ回し切るとベースパートはほぼ無音 (-21dB) になり、左に回し切ると最大音量 (+12dB) になります。ベースパートはトレブルボイスとは別の音色になりますので、音量をそろえたいときに便利です。また、このノブは MIDI マッピングができますので、お使いの MIDI コントローラーでリアルタイムにコントロールすることができます。
- **GREY KEYS SEL**：次の2ポジションがあります：
 - **TREB** ポジション：グレーの鍵盤エリアではトレブルボイス (または MTB) を演奏でき、ベースパートは発音しません。これにより、トレブルボイスの音域を1オクターブ下に延長できます。3つ目のオクターブランプ (鍵盤のすぐ上にあるランプの右端のもの) は消灯して、左の2つのランプのみが点灯し、ベースパートはその音域でのみ発音します。
 - **BASS** ポジション：ベースパートの音域がグレーの鍵盤エリアまで延長します。2つ目のオクターブランプが消灯して、両端のランプが点灯し、白黒反転鍵盤とグレー鍵盤のエリアの2オクターブ分をベースパートに使用できます。このボタンも MIDI マッピングに対応していますので、MIDI コントローラーでベースパートの音域をリアルタイムで切り替えることができます。

- **BASS ON/OFF** : ベースパート全体のオン/オフを切り替えます。オフの場合、キーボード全域でトレブルボイスを演奏できます。
- **BASS SHARP/SOFT** : ベースパートのトーンをソフト/シャープの2段階で切り替えます。
- **PERC ON/OFF** : ベースパートのパーカッション (打鍵時のアクセント) のオン/オフを切り替えます。
- **LONG/SHORT : PERC** がオンの場合のパーカッション音のディケイを2段階で切り替えます。

5.2. The Amp and Pedals

5.2.1. このセクションの概要

オリジナルの Farfisa Combo Compact は他の多くのオルガンと同様、ギターアンプから音を出し、ギター用エフェクターで音を変化させてよりハードな質感や、よりサイケなムードに仕上げるといった使い方をすることが多くありました。Farfisa V の画面下部の"フロア"部分には、オープンバック (背面開放) タイプのチューブアンプのエミュレーションに続いて5つのヴィンテージタイプのエフェクターが並んでいます。

エフェクトとアンプをすべてオフにすると、まったく加工されていないオルガンそのもののサウンドになります。

5.2.2. The Effect Pedals

各エフェクターのフットスイッチをクリックすると、そのエフェクターがオンになり、音を加工します。オンになったエフェクターは赤い LED が点灯します。信号の流れは左から右になっており、エフェクターの名称部分をクリックしてメニューを開き、そのスロットに入れたいエフェクトの種類を選択することで、エフェクターの順番は自由に入れ替えることができます。



上記の方法でエフェクターの種類を変更すると、エフェクターの位置が入れ替わります。例えばコーラス→オーバードライブと並んでいるところでコーラスをオーバードライブに変更すると、コーラスとオーバードライブの位置が入れ替わってオーバードライブ→コーラスとなります。

5つのエフェクターはオフの状態でも常時表示されます。エフェクターのエリアを空にする方法はありません。

すべてのエフェクターとアンプ、スウェルペダルは [MIDI ラーンモード \[p.26\]](#) で MIDI コントロールが行なえます。

5.2.3. The Amp

アンプは Fender Twin をベースにしたもので、スイッチをオフにしてオルガンだけ、またはオルガンとエフェクターだけのサウンドにすることができますし、アンプをオンにしてよりヴィンテージ感のあるアンプトーンにすることもできます。



右から順に次のようなコントロールがあります：

- **POWER**：アンプのオン/オフを切り替えます。
- **MASTER VOLUME**：アンプがオンの場合、Farfisa V の全体音量を調節します。
- **TREBLE, MIDDLE, BASS**：本物のギターアンプと同様、アンプのトーンを3つのノブで調節します。
- **VOLUME**：チャンネルボリュームを調整します。
 - チューブプリアンプで歪ませたいときはこのノブを最大にし、**MASTER VOLUME** を下げます。
- **BRIGHT**：オンにするとサウンドがより明るくなります（プレゼンス）。音量が小さいときのみ効果がかかります。
- **AXIS**：マイクをアンプに向ける位置をヴァーチャル的に変化させてアンプサウンドの質感を2段階で切り替えることができます。**ON AXIS** の場合、マイクをアンプのスピーカーに向けた状態となり、よりダイレクト感のあるサウンドになります。**OFF AXIS** の場合は、マイクをスピーカーから少し外した位置にセットした状態になり、ダイレクト感が若干少ないサウンドになります。

5.2.4. Flanger pedal



フランジャーは、入力信号を2つに分岐し、片方の信号に非常に短いディレイをかけてから、両方の信号をミックスするという動作原理です。ディレイタイムをLFOで周期的に揺らすことで、位相の干渉によりエフェクト音の色々な周波数帯域にピーク(山)やディップ(谷)が生じる"コムフィルター"効果が周期的に変化するスウィープエフェクトになります。DEPTH の値を高く設定すると、ディレイタイムの変化幅が大きくなります。

コントロール	内容
DELAY	中心となるディレイタイムを設定します。
DEPTH	ディレイタイムの変化幅を調節します。
RATE	スウィープの周期を調節します。
RES	レゾナンスの略で、フランジャーの出力を入力にフィードバックする信号量を調節します。値を高く設定すると位相の干渉によるフランジング効果がより強烈になります。

5.2.5. Phaser pedal



フェイザーは1960年代から70年代にかけて人気の高かったサイケなスウィープエフェクトで、サウンドに動きをつけ、いわゆる"シュワシュワ"したサウンドにすることで、聴きようによってはロータリースピーカーのようなサウンドにも聴こえます。動作原理としては急峻な多極フィルター（オールパスフィルター）を使用し、フィルター周波数をLFOで揺らすことで、入力音のスペクトラムが変化して"シュワシュワ"サウンドになります。フランジャーと似たような効果ですが、フェイザーの場合はディレイを使用しない代わりにフィルターを使用して入力音の位相を変化させています。フェイザーはFarfisaのようなオルガンサウンドによく合います。コントロールは以下の通りです：

コントロール	内容
RATE	フェイザーの周期を調節します。
DEPTH	フェイザーのフィルターの変化幅(フェイザーの深さ)を調節します。
FEEDBACK	フランジャーのレゾナンスと同様、フェイザー出力を入力にフィードバックさせて、位相の干渉で生じるピークやディップをさらに強烈にします。
STEREO	ステレオの広がり調節します。アンプがオンの場合はモノになります。

5.2.6. Chorus pedal



コーラスは入力信号のコピーを複数作成し、それぞれのピッチを微妙に（あるいは大胆に）変化させるエフェクトです。MIX ノブを右に回し切るとピッチが周期的に上下するエフェクト音のみになります。つまりコーラスはビブラートのスピードと深さを調節できるエフェクトと言うこともできます。ピッチが微妙に変化した信号を元の信号にミックスすることでビート周波数（うなり）が生じ、それによってサウンドに広がり感や動きが生じます。また、コーラス信号には原理的に短いディレイが生じ、あたかも同じ楽器を2回重ねて録音したような効果（ダブルング）になります。コーラスのコントロールは以下の通りです：

コントロール	内容
RATE	コーラスの LFO の基本スピードを調節します。
DELAY	コーラスの基本ディレイタイムを 0~25ms の範囲で設定します。この設定でコーラスの基本的な広がり感が決まります。
AMOUNT	ディレイタイムが LFO で変化する幅、つまりコーラスの深さを調節します。
MIX	コーラスのかかっていないドライ音と、コーラス信号のミックスバランスを調節します。左に回し切った状態では、コーラス信号がゼロとなり、コーラスがかかっていない音になります。右に回し切った状態では、ピッチが変化した信号のみの音になります（そのためビート周波数は生じません）。
ST.RATE	左右チャンネルのコーラス信号の LFO 周期の相対的な差を調節します。左に回し切った状態では左右のコーラス周期は同一となり、右に回していくほど左右のコーラス周期に違いが出てきます。
ST.WIDTH	ステレオの広がりを調節します。アンプがオンの場合はモノになります。
TYPE	コーラスのボイス数とその関係をい設定します。Type 1 ではピッチが変化するステレオボイス、Type 2 ではボイスが増え、Type 3 は最も複雑なコーラスボイスになります。

5.2.7. Analog Delay pedal



リバーブほどサウンドにエア感や高音域を強調しすぎず、また派手な変化も付けずにサウンドの深みを増したり、空間的な広がり感を出すという意味で、オルガンにとってディレイは最高のエフェクトです。コントロールは以下の通りです：

コントロール	内容
DELAY	ディレイタイムを 12ms～1,000ms の範囲で設定します。
FB TONE	ディレイ音のトーンを調節します。-100% (左に回し切った状態) ではディレイ音がリピートするたびにソフトなトーンになり、+100% (右に回し切った状態) ではリピートの都度ディレイ音が細くなっていきます。ノブがセンター位置 (12時の向き) で基本的にはフラットになります。
FEEDBACK	ディレイの出力を再入力するフィードバックの量を調節します。ノブを上げるとディレイのリピート量が増えます。
MIX	入力音とディレイ音のミックスバランスを調節します。左に回し切った状態ではディレイ音がゼロになり、ディレイのかかっていない音になります。右に回し切った状態では、ディレイ音のみになります。
LFO RATE	LFO の周期を 0.05Hz～10Hz の範囲で調節します。
LFO DEPTH	LFO セクションではディレイの再生スピードを周期的に変化させることで、ディレイ音のピッチを変化させます。ピッチの変化幅をこの DEPTH ノブで調整します。DEPTH ノブの値が 0.0% のときはディレイ音のピッチは変化せず、一般的なアナログディレイのサウンドになります。DEPTH の値を高くすると、ディレイ音にピッチモジュレーションがかかったり (LFO 周期が遅い場合)、ビブラートがかかります (LFO 周期が早い場合)。

5.2.8. Overdrive pedal



オーバードライブもオルガンサウンドに歪みやザラツとした質感を加えるという意味で最高のエフェクトの1つです。このオーバードライブはプリアンプ回路内のペアの 12AX7 真空管がオーバードライブした状態をモデリングしています。コントロールは以下の通りです：

コントロール	内容
DRIVE	オーバードライブ量を調節します。
OUTPUT	出力ゲインを 0dB~10dB の範囲で調節します。オーバードライブをかけたときに上がる音量をここで補正するのに便利です。
TONE	高音域のトーンを調節します。ノブを左に回し切った状態では高音域はミュートされ、右に回し切った状態では高音域まで伸びたディストーションサウンドになります。

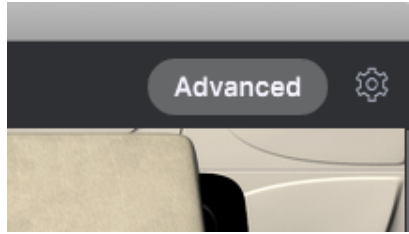
5.2.9. The Swell pedal



スウェルペダルはオルガンにダイレクトに接続されているペダルで、オルガンからエフェクトペダルやアンプに送るボリュームを調節するボリュームペダルです。このペダルも MIDI マッピングに対応していますので、エクスプレッションペダルにアサインし、お使いの MIDI キーボードで Farfisa V を演奏すれば、オリジナルの Farfisa オルガンにかなり肉薄した演奏体験をお楽しみいただけます。

6. ADVANCED PANEL

アドバンスド機能は **Advanced** ボタンまたはオルガンのクリーム色のフード部分をクリックするとアクセスできます。



アドバンスド機能では、各ノートのチューニングなどオリジナルハードウェアでは調整が非常に面倒なものや、オリジナルハードウェアにはなかった以下のような追加機能を使用できます：

- アディティブ方式による波形合成や、スライダーを波形に見立てて波形を作成できるシェイプモードが使用できる USER ポジション。
- リバートップの選択とリバートップ量の調整。
- エンベロープのトリガー方法を選択できるパラフォニック/ポリフォニックモード。
- 音作りの幅を広げるアッパー/ローワ独立のアタック/リリースエンベロープ。
- ベースセクション用の波形セクター。
- ベースセクションのトーンコントロールとレゾナンス。
- アナログトランジスタのノイズをミックスできるノイズレベル (オフにもできます)。
- マスターボリューム、ベース、トレブルコントロール。
- ワウペダル効果を出せるニーレバー (MIDI CC でコントロールできます)。



6.1. The Voice Tune section

オリジナルの Farfisa の内部は、12個のマスターオシレーターがあり、そのそれぞれに5個の分周器と低い "C" の音用の分周器1個がつながっているという構成でした。そのため、全体では $(1+5) \times 12 + 1 = 73$ もの周波数を常時発振していました (Farfisa V ではオリジナルよりも音域を広げていますのでそれ以上の規模になっています)。こうしたオシレーターと分周器による音源システムでは、同音のオクターブ違いの音 (例えばすべての "C" の音など) は位相が同期しているという特徴もあります。



12個のマスターオシレーターのチューニングは個別に調整できます。ポット部分をダブルクリックするとセンター位置にリセットします。12個のチューニングポットすべてをセンター位置の0セントにリセットした場合、Farfisa V は正確に A4=440Hz の平均律で発音します (本物の Farfisa と同じサウンドになるかどうかは別話ですが)。そのため、オルガンテンプレートの多くは一部の音程をわずかにズラしてよりオルガンらしい響きを作り出しています。12個の各チューニングポットは MIDI コントローラーにマッピングできますので、各音程のチューニングをリアルタイムに行えます。

6.2. The Bass Wave section

Bass Wave セクションはオリジナルの Farfisa よりも拡張された機能で、ベースパートの波形を選択してエディットすることができます。



BASS WAVE ノブ：ベース波形を以下の7種類から選択できます：

- **ORIG**：Farfisa の音源システム (User Wave オフ時のトレブルボイスと同じもの) によるオリジナル波形
- **1**：ノコギリ波
- **2**：シンク (ハードシンクをかけたノコギリ波)
- **3**：Mod (変形させた矩形波)
- **4**：矩形波
- **5**：パルス波 (パルス幅 15%)
- **6**：アディティブ (アディティブ合成によるユーザー波形)
- **7**：シェイプ (アドバンスドパネル右側にあるスライダーを使用した波形ドローイングによるユーザー波形。詳しくは後述の [The User Wave Section \[p.66\]](#) をご覧ください。)

BASS SOFT/SHARP を **SOFT** にセットしている場合、ベース波形の違いが聴き取りにくくなりますので、**SHARP** にセットしてください。**TONE** ノブを低い値に設定している場合も同様のことが言えます。以下をご覧ください。

TONE ノブの左右にあるアイコンは月 (暗いトーン：20Hz) と太陽 (明るいトーン：20kHz) をそれぞれ表しています。**TONE** ノブを右に回し切った状態では、24dB/Oct のラダーローパスフィルターのトーン回路がバイパスとなり、ベース波形のすべての倍音がそのまま出力されます。**TONE** ノブをそれ以外のポジションにセットしたときは、その位置に応じてフィルターがかかります。

TONE ノブを左へ回していくほど高い周波数の音はローパスフィルターを通過できなくなっていきます。ベースパートの最低音の C の基音は 63Hz です。で、**TONE** ノブを最低値の 20Hz にセットしたらどうなるのでしょうか？どんな音もフィルターを通過できず、ベースパートは事実上の無音となります。

RESO ノブはトーン (フィルター) のレゾナンスです。

6.3. Noise Level control



Noise Level ノブで、オリジナルの Farfisa サウンドの一翼を担っていたノイズをミックスできます。ノブを最大値にするとノイズや電源ハムなどが相当に混ざったサウンドになります。

6.4. Voice Mode switch



AR ENV (アタック/リリースエンベロープ) がオンの場合、この Voice Mode スイッチで次の2つのモードを切り替えることができます：

- **Polyphonic**：ポリフォニックシンセのように、各ノート個別にアタックとリリースのエンベロープが付きます。
- **Paraphonic**：各ノート個別にリリースは付きませんが、アタックはグローバルとなり、すべての (トレブルキーの) ノートがオフになるまで再トリガーしません。このモードでレガート奏法をすると、2番目以降に弾いたノートに対してはアタックが付きません。この動作は、ARP Solina / Arturia Solina V などのストリングスシンセや、Hammond B3 オルガンのパークッションと同様のものです。

この機能は、トレブルボイス (フロントパネル右側のグリーンと白のタブ) にも適用され、ベースパートには適用されません。ベースにもアタックはありますが、最も遅い設定でも 3ms です (それでもアタック部分のクリック音のカットには役立ちます)。ベースパートはパラフォニックのエンベロープの影響はまったく受けません。これは、ベースはハードに弾きつつも、トレブルボイスでスローアタックのパッドやストリングス的な音色でコードを押さえることができるように、といった考えからこのような機能の構成になっています。

AR ENV スイッチがオフの場合、**VOICE MODE** スイッチの設定は無効になります。

6.5. The Envelope section

AR ENV (アタック/リリースエンベロープ) スイッチをオンにすると、エンベロープセクションが機能します。これにより、ATTACK と RELEASE の2つのノブでアタックとリリースの設定をそれぞれ行えるようになります。

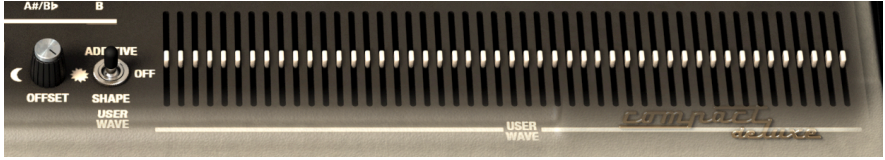
ATTACK を早い設定 (ノブを左へ回す) にすると、キーボードを弾いた瞬間からほとんど音がでて、シャープな音色感になります。逆にアタックを遅くする (ノブを右へ回す) と音がゆっくりとフェイドインし、ストリングやパッド音色のような感じになります。

RELEASE を早い設定 (ノブを左へ回す) にすると、キーボードから手を放すとすぐに音が止まります。ノブを右へ回してほどリリースタイムが長くなり、音はゆっくりとフェイドアウトしていきます。これもまたパッドやストリングスのような感じのサウンドに近づきます。



6.6. The User Wave section

User Wave セクションは、音源波形を自在に作り出すことができるソフトウェア版の Farfisa V ならではの追加機能です。



User Wave スイッチには、次の3つのポジションがあります：

- **OFF** (センターポジション)：このポジションでは、オリジナルの Farfisa Compact の波形でアッパーゾーンを演奏できます。この波形は、ノコギリ波とパルス波の中間的なもので、アナログハードウェアによるオシレーターと分周器といった音源方式特有の、音程間で波形に微妙な違いが生じた波形です。このポジションにセットした場合、スイッチの右側にあるスライダーは機能しません (ベースパートで Additive か Shape を選択した場合以外)。
- **ADDITIVE**：アディティブモードでは、48本のスライダーを使ってサイン波合成によるアディティブ波形を作成できます。スライダーの左側数本のみで音作りをした場合、トーンホイール方式のオルガンのような音色になります (ドローバーも概念的にはサイン波による倍音合成です)。より多くの倍音をミックスしていくとその分だけ高域が耳につくような音色になっていきます。すべての倍音をミックスした音色を聴くには、高域がより多く通過できるボイスフィルター (All Booster や Strings など) を選択しておく必要があります。
- **SHAPE**：シェイプモードでは、48本のスライダーで波形を自由にドローイングすることができます (Organ > Square Wave プリセットをご覧ください)。

アディティブやシェイプモードでは、すべてのノートが同じ波形になります (ノートによって出力レベルは多少変わりますが) ので、シンセに近い音色になります。User Wave スイッチを切り替えても、スライダーで作ったセッティングは維持されます。例えば、シェイプモードでいい感じの波形を作った後で、User Wave スイッチを一時的にアディティブモードに切り替えて、またシェイプモードにスイッチを戻しても、以前作った波形はそのまま残っています。

ベースパートもアディティブ/シェイプによるユーザー波形を作成できますが、ベースパート専用のスライダーセットはありませんので、トレブルボイス用のスライダーセットを使用します。

i ベースパートは、User Wave スイッチがオフのポジションでもユーザー波形を使用できます。BASS WAVE ノブを #6 (アディティブ) か #7 (シェイプ) にセットした場合は、USER WAVE スイッチを ADDITIVE か SHAPE にセットして、ベースパートの波形を作り、USER WAVE スイッチを OFF (センターポジション) に戻すと、トレブルボイスは Farfisa トーンで演奏できます。この場合、BASS WAVE ノブはアディティブかシェイプのままです。USER WAVE スイッチのポジションに関係なく、ベースパートはユーザー波形で演奏することができます。

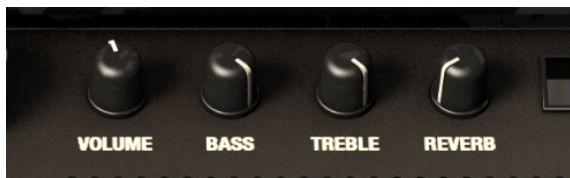


- **OFFSET** ノブ：12dB/Oct のローパスフィルターで、USER WAVE スイッチが ADDITIVE か SHAPE にセットされているときのみ動作します。このノブが 100% の場合、すべての倍音を聴くことができ、50% のときは低音側から半分まで、0% の場合は第1倍音 (基音) のみのサウンドになります。

6.7. Master Volume and EQ

このセクションで Farfisa V から出力する全体音量を調節できます。画面下部の"フロア"にあるアンプがオンの場合は、アンプに送るオルガンからの全体音量を調節します。

！アンプがオンの場合、アンプにもマスターボリュームがありますので、アンプのマスターボリュームが下がっていると、非常に小さな音しか出ない、もしくはまったく音が出ないということになることがあります。アンプがオフの場合は、このセクションの **VOLUME** ノブで全体音量を調節できます。アンプがオンの場合、このセクションの **VOLUME** ノブとアンプの **MASTER VOLUME** を高く設定するとかなりの大音量になりますので十分にご注意ください。モニタースピーカー等オーディオ機器の破損や難聴などの聴覚異常を引き起こす恐れもありますので、音量設定には十分にご注意ください。

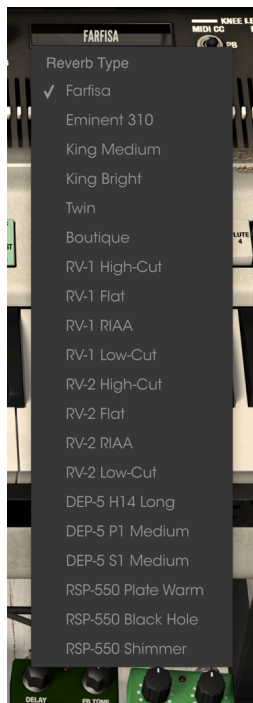


- **BASS, TREBLE** ノブ：オルガン全体のトーンを調整します。低音域と高音域の音量をそれぞれ調節できます。
- **REVERB** ノブ：リバーブの音量を調節します。このノブを左に回し切った状態ではリバーブのない音になり、右に回し切った状態ではリバーブが100%ミックスされた状態になります。なお、フロントパネルのベージュの **REV** スイッチがオンにセットされていないとリバーブがかかりませんのでご注意ください。

6.8. Reverb Type

アドバンスドパネルでは、リバーブのタイプを選択できます。48本のスライダーの上にあるディスプレイ部分をクリックするとプルダウンメニューが開き、そこからリバーブタイプを選択できます。リバーブのミックスバランスは REVERB ノブで、リバーブのオン/オフ切り替えはフロントパネルの REV タブスイッチでそれぞれ行います。リバーブモデルのタイプは以下の通りです：

- Farfisa : Farfisa Compact Duo の F/AR スプリングリバーブのモデリングです。
- Eminent 310 : Eminent 310 Unique に内蔵されていたスプリングリバーブをモデリングしたものです。
- King Medium/Bright : Danelectro DSR-1 Spring King (スプリングリバーブ) のモデリングです。
- Twin : Fender Twin Reverb (ギターアンプ) のスプリングリバーブのモデリングです。
- Boutique : Boutique ギターアンプのスプリングリバーブのモデリングです。
- RV-1 : Furman RV-1 (スプリングリバーブ) と4タイプの EQ セットアップのモデリングです。
- RV-2 : 2台の Furman RV-1 でステレオ化したものと4タイプの EQ セットアップのモデリングです。
- DEP-5 : Roland デジタルエフェクトプロセッサ DEP-5 の3種類の長さのリバーブをモデリングしたものです。
- RSP-550 : Roland ステレオシグナルプロセッサ RSP-550 の3タイプのリバーブをモデリングしたものです。



6.9. The Knee Lever section

ニーレバーは、Farfisaオルガンに装備されていたレバーコントローラーで、座って演奏するときには膝でコントロールし、フロントパネルのグリーンタブスイッチの MTB (MultiTone Booster) 機能をコントロールするためのものでした。Farfisa V ではスイッチ切り替えてこの機能に加えて、ワウフィルターのコントロールも行えます。



KNEE LEVER スイッチ：ニーレバーをコントロールするコントローラーのタイプを次の3種類から選択できます：

- **MIDI CC**：右サイドパネル (アッパーツールバー右側にあるギアのアイコンをクリックして開きます) の MIDI タブで任意の MIDI CC をニーレバーにアサインできます。この場合、ニーレバーは他のノブ等と同様の動作となり、自動的に 0% に戻ることはありません。
- **PB** (ピッチベンド)：ニーレバーは MIDI ピッチベンドメッセージでもコントロールできます。このモードの場合、ピッチベンドホイールから手を放せば、オリジナルのニーレバーと同様、自動的に 0% に戻ります (お使いのピッチベンドホイールがスプリング内蔵の場合)。
- **AT** (アフタータッチ)：ニーレバーは MIDI チャンネルアフタータッチメッセージでもコントロールできます。このモードの場合でも、キーボードから手を放せばニーレバーは自動的に 0% に戻ります。

KNEE LEVER スイッチを MIDI CC モードに切り替えると、MIDI CC モードでのニーレバーのポジションを再現します。

KNEE LEVER セクションの右側のスイッチでは次の2ポジションを切り替えることができます：

- **MT BOOSTER**：MT BOOST タブがオンで、ALL BOOST がオフの場合、ニーレバーで Farfisa オルガンの高音域のブーストをコントロールできます。
- **WAH FILTER**：MTB のコントロールではなく、ワウペダルのコントロールができます。

i このスイッチを **MT BOOSTER** にセットしていても、フロントパネルで MTB ボイスを選択していないとニーレバーでのコントロールは無効になります。白いタブスイッチのトレブルボイスやベーススタブの音色は、ニーレバーではコントロールできません。また、グリーンタブの **ALL BOOST** スイッチがオンの場合、高音域がすでにフルブーストされているのでニーレバーのコントロールは無効になります。

ワウモードの場合、ニーレバーですべてのトレブルボイス (グリーンと白のタブスイッチ) にワウが適用されますが、ベースパートにはワウはかかりません。

7. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンスサーとしてお客様（被ライセンス）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および (ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却（製品のアクティベーションなど）は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとしします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとしします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとしします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとしします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。